

# ぬくもりの バトン

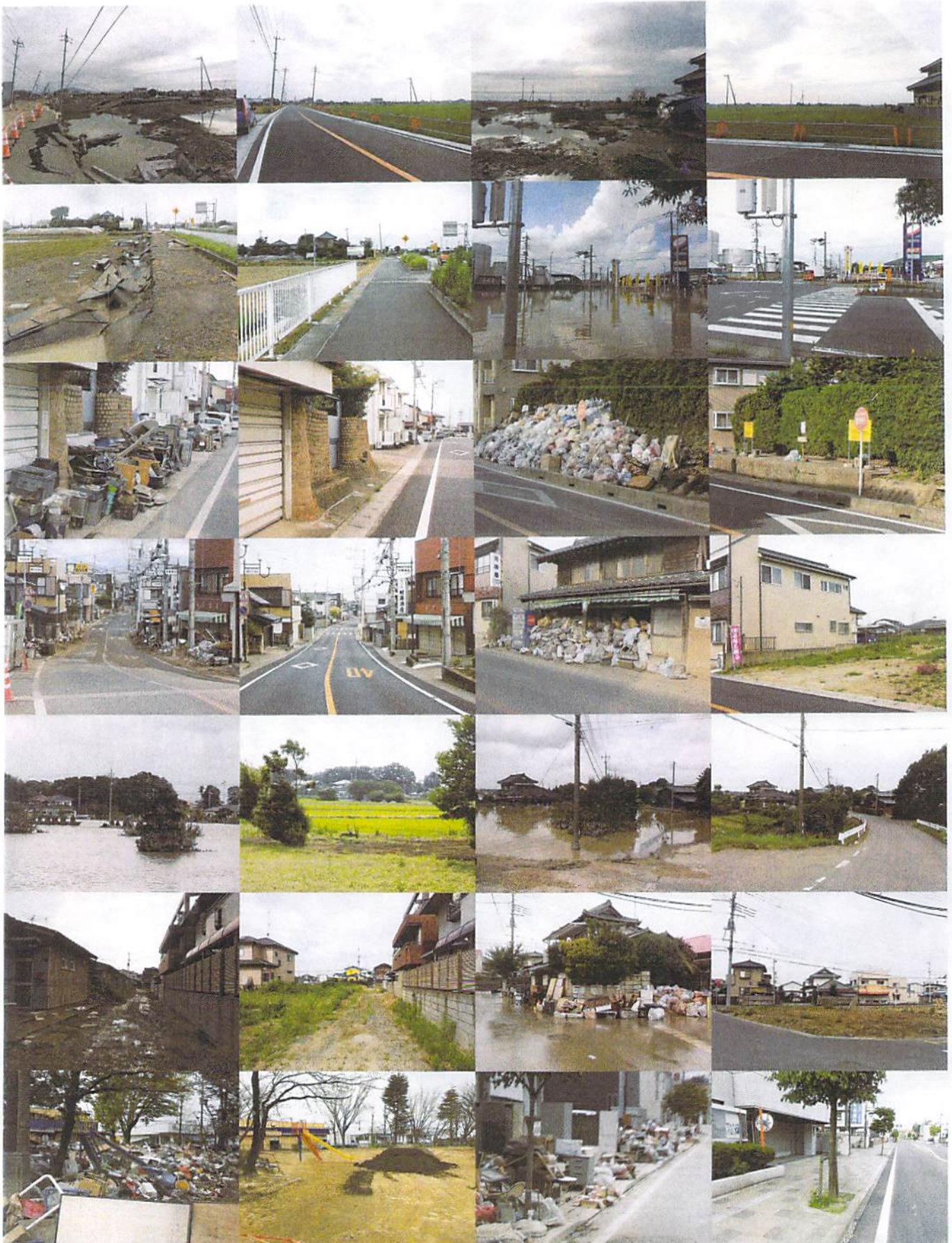
常総市民  
9月10日からの想い

# プロジェクト





災害時の地域の状況と、その後の変化を伝えるために、みなさんが撮られた写真を共有しましょう。 送り先：〈 [juntos@npocommons.org](mailto:juntos@npocommons.org) 〉



## はじめに

去年の9月の常総市の水害被害から1年近くが過ぎ、災害は過去のことになりつつありますが、今も「被災」が続いている方は多くます。災害は家を壊し、車、アルバムなどあらゆるモノを奪いました。お金で再建できるものもありますが、思い出のつまったモノ、仕事、生きがい、人とのつながり、そしてそこにあった当たり前の暮らしは買い戻すことはできません。「失われたもの」は外から見えにくいため、街並みが回復したと言われるほど、被災された方の心にはモヤモヤした想いがつづります。その想いが誰かと共有され、共に前に進もうと思えるようにすることが心の復興だと思います。

空き地にアパートが建って人が住むようになって「もう一度常総に住もう、帰ろう」と思う人が増えなければ本当の復興とは言えないと思います。すでに千人近い住民が常総市を離れてしまいました。住んでいたアパートが修理されず戻れない人、一度は片付けたけれどカビやニオイで住めないと家を解体した人もいます。一部しか自宅の修復ができず未だに2階暮らしで不便な生活をしている人もいます。このように、見えないところで、辛い想いの中で日々暮らしている人が、この本を通じて「私だけではない」「他にも頑張っている人がいる」と思えたら、前を向ける人が少しは増えるかもしれません。

災害は誰もが当事者になりえます。災害時にどう避難し家族の命や資産を守るか、このことはすべての人が考え、備えた方がいいことです。常総市の110世帯の避難生活を記録したこの本が、被災経験が風化してしまうことを防ぎ、自分たちならどうするかを考えるきっかけになればと思います。

「自分ではもう直せないから長年住んだ家だけ壊すしかない。家族のところに行くしかない」という話が忘れられません。お金がない、気力もないと、

昨年9月から手が付いていない家がいくつもあります。私たちが発災後に立ち上げた“たすけあいセンター「JUNTOS」”ではボランティアの手でそうした家を修復し、人々が集える場所や共に暮らせるシェアハウスに変える活動にも取り組んでいます。その活動にボランティアに来てもらい今後も交流を育んでいきます。大変だったあの時、多くのボランティアの方々に勇気をいただきました。そうした方々の写真も掲載しています。

「忘れられている」「わかってもらえていない」と思うことはとても辛いことで、そう思うと人は心の扉を閉じてしまいます。心の壁を取り除くことはコモンズのミッションでもあります。そう思っ外国から来た人や福島から避難してこられた人と地域の人々を繋ぐ活動を続けています。災害は被害の差、支援の差、再建力の差、など様々な格差と気持ちの温度差を生み出しました。この差を埋めていくには、お互いの暮らしに関心を持ち、災害で何が起きているかを知り、自分だったらどうするか、想いを共有することが大切だと思います。「ぬくもりのバトン」プロジェクトはそのために取り組んだ活動です。電気毛布と応援する気持ちを受け取った110世帯の方々が、貴重な体験談と想いを言葉で返してくださいました。そのメッセージが、この本を通じて多くの方に届き、想いが共有されて、心の復興に繋がっていくようにしたいと思います。最後になりましたが、発災以来、寄付やボランティアでご支援いただいた方々、メッセージを届けてくださった皆様、本当にありがとうございました。今後も生活再建に向けていっしょに(juntos)取り組んでいきましょう。

2016年9月

認定特定非営利活動法人茨城NPOセンター・コモンズ

代表理事 横田 能洋

## ぬくもりのバトンとは

2015年11月、最後まであった5箇所の避難所の閉鎖が近づいていたころ、避難所から出ても戻れる家がない方、自宅の修復が終わっていない方が多くいると思いました。そうした方とつながるために支援物資を届けつつ自宅や新たな避難先に訪問する活動をJUNTOSは企画しました。

日用品や自転車など必要なものを購入して届けていましたが、エアコンが使えず風が吹き込む家は寒いのでは思い、寄附を募り電気毛布を購入して届けることにしました。そして、ただ物資をお届けするだけでなく、被災した方にも参加していただける活動を考え、自分たちの経験をメッセージにして寄せていただくことにしました。

そこで、避難所の入り口に物資の申し込み用紙と回収箱を置き、サロンや炊き出しの会場でも参加を呼びかけました。そして12月に電気毛布の希望があった世帯を1軒ずつ訪問しながら、寄付者の想いのこもった毛布を届け、書いていただきたい8つの

ことを説明しました。

年末年始、家族で9月からのことを振り返りながら書いていただけたらと思っていましたが、徐々に返信用封筒が届き始めました。中には、何枚も書き足して書いてくださった方もいました。想っていても話す機会がなかった方が多くいると思います。そうした方々のメッセージを綴ったのがこの冊子です。

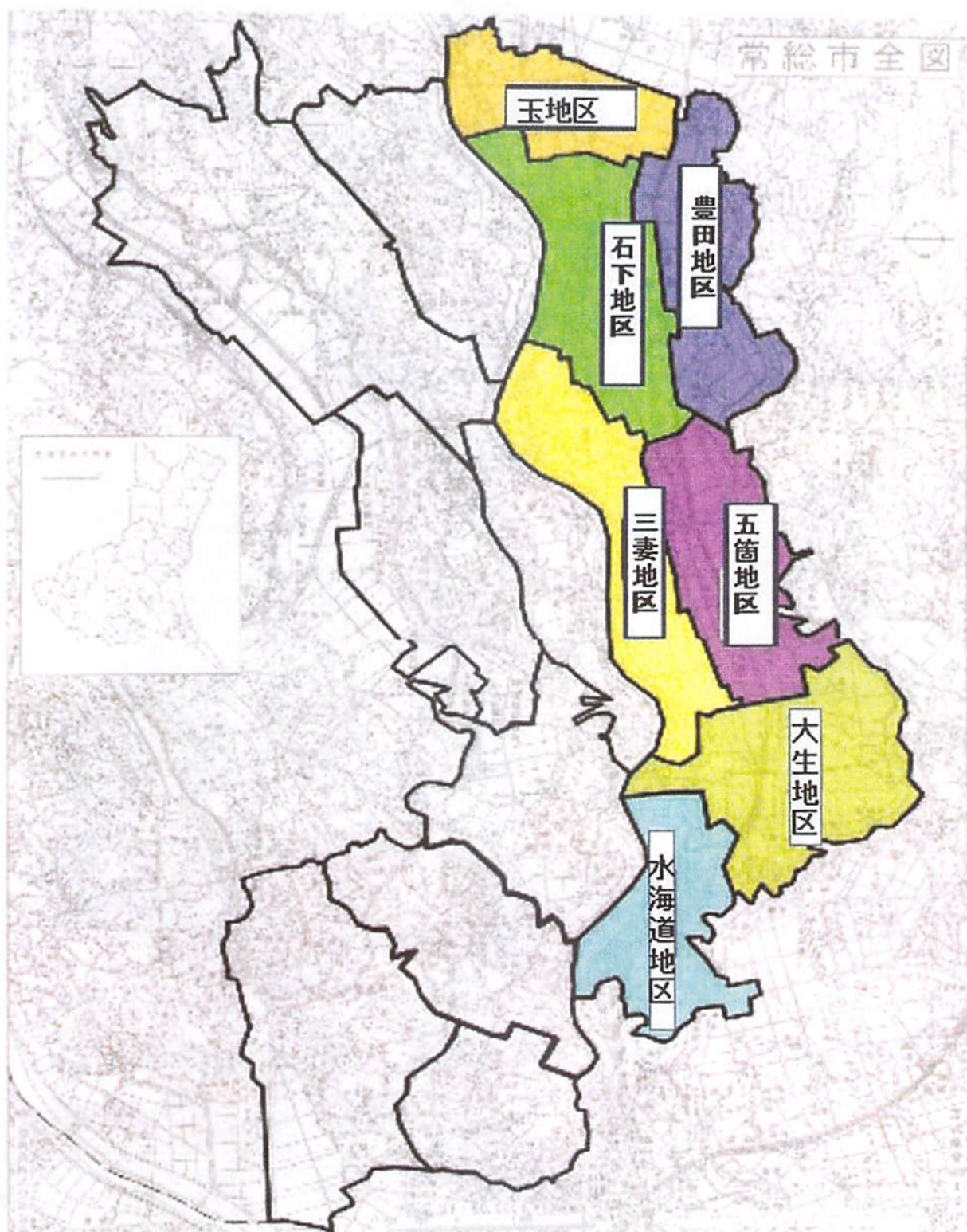
### 皆さんに尋ねた質問

- ① 9月10日から今までどうすごしてきましたか
- ② 生活はどう変わりましたか
- ③ うれしかったこと、つらかったことは
- ④ 学んだことや教訓は
- ⑤ 考えていること、悩んでいることは
- ⑥ まちやくらしの再生、復興で必要なことは
- ⑦ 行政に望むことは
- ⑧ 市外の人たちへのメッセージ

## CONTENTS

158	150	138	132	128	122	88	86	71	62	59	36	29	28	25	22	14	10	3
橋本町からつくばに避難されている方の手記からの抜粋	水害当日からJUNTOS立ち上げまでの4日間の記録	たすけあいセンター「JUNTOS」の活動について	鬼怒川水害支援からわかったこと	ぬくもりのバトンから読み解ける声、キーワードの分析結果報告	外国人被災者の声	匿名 被災者の声	水海道地区 水海道淵頭町の声	水海道地区 水海道森下町の声	水海道地区 水海道橋本町の声	水海道地区 水海道天満町の声	大生地区の声	五箇地区の声	三妻地区 中妻町の声	三妻地区 三坂町の声	三妻地区の声	石下地区の声	玉地区 若宮戸の声	常総市水害資料

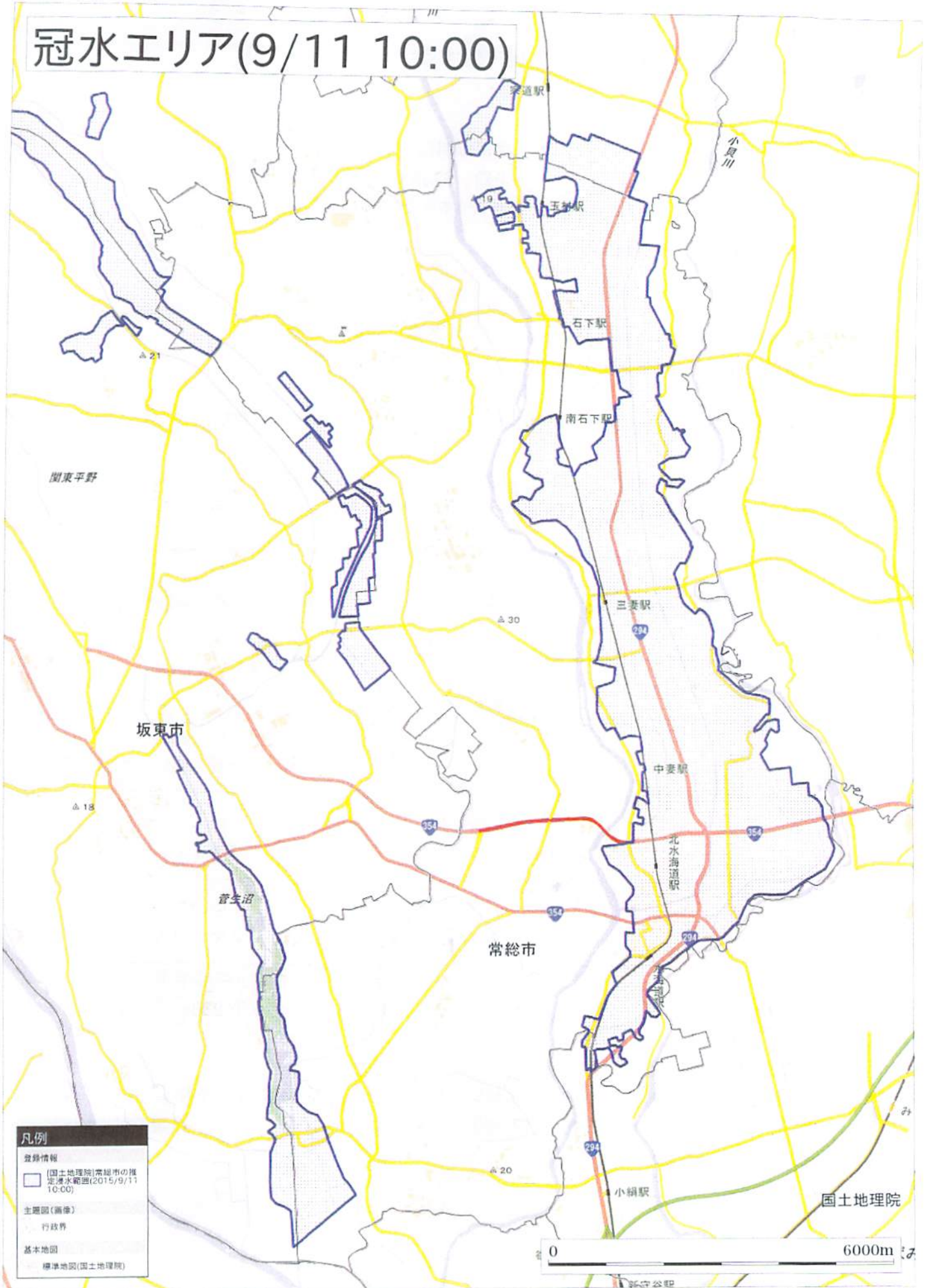
# 常総市鬼怒川東部エリア区分地図



参照 常総市役所 HP 復興ビジョンより (たすけあいセンター「JUNTOS」が編集)



# 冠水エリア(9/11 10:00)



関東東北豪雨での常総市の被害と支援に関するデータ (2016年6月2日現在)

全壊	53件	罹災証明について 申請 6755件 交付 6144件 (件数の差は、重複申請によるものが多い)
大規模半壊	1581件	
半壊	3489件	
床上浸水	150件	
床下浸水	3067件	
計 8340件		

農業被害

農作物 1402.4ha 収穫後保管米 1,092t 農業用機械 1,092台  
農地、農業用機械 農業集落排水などを合わせ被害総額 75.5億円

住宅応急修理 申請 2941件 交付 3183件 (1件の家で複数の修理も含む)

義援金	常総市 4756件	3億 8460万円	5月 27日現在
	茨城県 4684件	11億 8375万円	6月 2日

	茨城県災害見舞金	茨城県義援金	常総市災害見舞金	常総市義援金
床上浸水有、 半壊に至らず	2万円	1次：25万円 2次：11.6万円	2万円 1万円 (※)	1次：8万円 2次：6万円
半壊		1次：25万円 2次：11.6万円	3万円 1.5万円 (※)	1次：8万円 2次：6万円
大規模半壊		1次：25万円 2次：11.6万円	3万円 1.5万円 (※)	1次：8万円 2次：6万円
全壊		1次：50万円 2次：23.2万円	5万円 2.5万円 (※)	1次：16万円 2次：12万円

(※ 単身世帯は半額支給)

・常総市見舞金 4762件 (5月 27日現在) ・ふるさと納税 4100件 1億 2334万 893円

このほか、被災者生活再生支援制度に基づく支給が行われた。

今回の災害では、茨城県と常総市による特別措置で、半壊世帯に対して、支援金 25万円が支給されたほか、住宅応急修理の所得制限 (年収 500万円を超える世帯が申請不可) の対象者への救済措置がとられた。



## 避難所の人数の推移

	名称	閉鎖日	10日14時	10日23時	11日10時	11日16時	
						日本人	外国人
1	水海道総合体育館	10月13日	36	36	30	21	13
2	菅生公民館	11月20日	0	2	2	5	0
3	あすなろの里	12月1日	11	24	20	11	2
4	坂手公民館	9月15日	42	5	11	8	0
5	菅生小学校	9月12日	0	0	2	1	0
6	きぬふれあいセンター	12月1日	7	0	3	3	0
7	豊岡小学校	9月27日	40	79	157	262	10
8	豊岡公民館	12月1日	1	0	53	59	0
9	菅原小学校	9月18日	11	14	6	5	1
10	菅原公民館	9月11日	11	16			
11-1	水海道一高(亀陵会館)	9月22日	166	268	332	341	0
11-2	水海道一高(体育館)	9月22日	67	112	170	148	1
12	ふれあい館	12月1日	40	40	246	246	0
13	水海道小学校	9月27日	400	635	698	607	100
14	報国寺	9月14日	19	59	136	107	7
15	大楽寺	9月18日	11	101	43	164	3
16	議会棟2階大会議室	9月27日	100	268	270	270	0
17	市民ホール	9月13日	43	149	130	130	0
	水海道 小計		1029	1808	2309	2388	137
18	豊田小→豊田文化センター	9月27日	200	167	182	150	0
19	岡田小学校	9月19日	111	130	20	15	5
20	石下西中学校	9月27日	154	168	150	160	0
21	岡田文化センター	9月12日	6	4	2	1	0
22	地域交流センター	9月27日	550	1120	700	200	0
23	石下総合体育館	12月8日	225	597	695	760	0
	石下 小計		1246	2186	1749	1286	5
	常総市 計		2275	3994	3498	3674	142
24	つくばみらい市 きらく山	9月26日	0	59	100	145	0
25	つくばみらい市 総合運動公園	10月11日	0	139	302	325	0
26	坂東市 内野山小	9月11日	0	26	24	20	0
27	坂東市 猿島公民館	9月15日	0	12	4	1	0
28	つくば市 豊里庁舎	10月11日	0	600	600	600	0
29	守谷中学校→学びの里	10月11日	0	13	49	77	0
30	大形小学校		0	13	11	4	4
31	豊里中学校	9月14日	0	70	111	111	0
32	上郷小学校	9月14日	0	0	12	12	0
33	宗道小学校		136	170			
34	千代川体育館	10月4日	150	235	158	113	0
35	谷田部総合体育館	10月12日					
	市外 計		286	1337	1371	1408	4
	避難者 計		2561	5331	4869	5082	146

人の出入りが多く実際にいた人数とは必ずしも一致しない場合も含まれる

水害時の避難所指定施設

第二避難所指定施設

## 9月10日から今までどうすごしてきましたか

早朝、下妻市立千代川中学校体育館に避難し、午後千代川体育館へ変更になり26日まで避難所生活、朝方家に帰り家の片付けを行い、夜は避難所といった生活が続きました。26日からは石下総合体育館に移り12月7日まで避難所と家の片付け生活、12月8日から第二避難所、12月25日まで。12月26日から自家での生活に戻りました。しかし、何もない所での生活は被害を受けた人でないと分らないと思います。

## 生活はどう変わりましたか

一階にあつた物が水に浸り、冷蔵庫、石油給湯器、ストーブ、クーラー、扇風機、衣類、和洋タンス、フトン、パソコン等々が使えなくなり捨てた。失ったものが多く、これらを揃えないと元の生活に戻れない。

## うれしかったこと、つらかったことは

9月11日避難所から家に戻り、庭は穴ぼこ、塀は倒され、家の中は泥水が入り、畳は泥を被り、物が散乱し、手を付けられない状態で愕然とした。何でこんな水害になったのか、いままで（昭和13年以来77年間）、国交省は無堤防のまま何をしてきたのかと怒りが込み上げて来た。無堤防が約800mあるが山林の高い所があるから水害は起こらないだろうと想定していたのだろうか？ だとしたら、この水害の責任は、人災で、国が損害補償をすべきではないか？

うれしかったことは、ボランティアさんの手助けがあつたと、非常に有難く感謝しています。

## 学んだことや教訓は

各地で災害が発生するとボランティア組織がいち早く現場活動している所をテレビ、新聞等で目にしますが、今回の水害での活動に接し、有難く思います。自分も20歳若ければ、ボランティア活動に参加して困っている人の役に立てたらと悔やんでいます。

## 考えていること、悩んでいることは

失ったものを徐々に買いながら充実した老後生活を送りたい。悩んでいても始まらない。国の補償をお願いする。

## まちやくらしの再生、復興で必要なことは

住民が安全で安心して暮らせる対策の実行かな。

## 行政に望むことは

今回の災害で困った事は、市役所の機能が麻痺したため住民の要望対応ができなかった（市役所も浸水した）。今後災害のない事を祈るが、仮に緊急事態が発生した時は、各部署の統一をはかり、特別緊急対策室を設置して避難住民の要望を瞬時に対応できるように望む。



市外の人たちへのメッセージ

全国各地からボランティア組織の人達が、家の片付け、泥かき等を手伝って頂き大変助かり有難うございました。まだ避難所や地区での支援物資の提供、食事会、お茶会の開催など、まだJUNTOOSさんから頂いた電気毛布使っています。有難うございました。



## 9月10日から今まででございしてきましたが

夜中の2時30分、指示。すぐに避難所へ行きました。それから2ヶ月位、床は4か所全部切って穴だらけ。夜はおちたら大変とびくびくしました。新しい軽い畳が入った時はホッと思いました。今日で4か月。夢を見ていたのか。いや現実なのです。

## 生活はごどう変わりましたか

思いがけずお金が必要だったこと、電気製品(冷蔵庫、冷凍庫、クーラー3台、風呂ボイラー、コタツ、ストーブ3台、キッチンセット(これが大変です。まだ入っていません)、他いろいろ。畳24枚等です)、自動車もです。又、泥をかぶった物、あのさわぎの中、捨ててしまい気がつくとなない大事な物が沢山あることです。

## うれしかったこと、つらかったことは

人の温かい心をいただいたことです。すぐに多くの友達がかけてくださいます。あれやこれや、ボーツとしている私にかわり片付けをしてくれました。あまりのすごさに頭の中が真っ白になってしまふのです。ありがたかったです。車もなく、冷蔵庫もない生活、今まで当たり前だった便利さをおもいしらされました。いただいた食べ物や次の日ごうししょうか……。ここで具合が悪くなったら……と思ひ、もったいない心とがゆれ動きました。2ヶ月位、庭いっぱいのがレキの山、泥水をボランティアの皆さまが手弁当で頑張ってくれたこと、うれし涙

の日々、又家中のヘドロ、家具のそうじ、建具のそうじ、イヤな顔もしないできれいにしてくれました。ありがとございしました。いつの日か何かの心で返せたらと思ひます。

## 学んだことや教訓は

人生長く生きているといろんな事があるものです。以前にある僧侶の方から魂の話の話を聞きました。人が亡くなると閻魔大王の所へは魂だけが行くそうです。大王様はピカピカ丸い魂とガチガチの魂で天国か地獄か決めるそうです。この度ボランティアの皆さん、私の友達はきつと丸くひとまわりきれいになったことでしょう。その反面、私達の近くの山の自然堤防の山の木をソーラー建設のため、根こそぎぬいた人のいた事も残念なことです。いつか水害が起きることはわかっていました。甚大な被害が出ました。家もなくブロック塀もたおされ、又、家の修理のため4か月たっても夜暗い家が沢山あります。つらいことです。又、泥棒にも入られました。このような事をして反省しない人のこと……。その人達に言いたいです。今からでも魂が丸くなるように生きて下さい。心から思ひます。(人間年をとっても、一日一善無理しなくても小さい事でもピカピカ丸くなるそうです。実行してみてください。)

## 考えていること、悩んでいることは

一日も早く堤防が出来る事です。このままでは安心して住めそうにありません。

まちやぐらしの再生、復興で必要なことは

みんなが水のおそろしさを話し合うことだと思えます。常総市は鬼怒川と小貝川があるのですからこれからも洪水の事を忘れないでいかなければいけないと思います。二度とおきないようにはなくてははいけません。

行政に望むことは

まだまだ家の修理にお金がかかります。国から支援をしてほしいです。どうぞよろしくお願いします。常総市が住みよい市になるように頑張ってください。

市外の人たちへのメッセージ

私はつくば市の避難所にお世話になりました。大変良くして下さりうれしかったです。ありがとうございました。遠く仙台、東北の方から炊き出しもうれしかったです。おいしかったです。ボランティアの方達、一生懸命汗流して夕方帰る時、交通事故などないように祈りました。皆さん笑顔がすてきで、やつれた私も救われました。なかにはフランスに住んでいる女性も帰国の合間にお手伝いして頂きました。心から感謝しております。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

避難所生活は一週間、今は自宅で生活しています。

生活はどう変わりましたか

前の生活とあまり変わりません。

学んだことや教訓は

人のやさしさ、家族の絆、品物を増やさない事。

考えていること、悩んでいることは

再度の水災害が心配です。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

お金です。お金があれば何でも出来る。

行政に望むことは

危険な場所は放置しない。早く対策をとって下さい。

市外の人たちへのメッセージ

多くのボランティアの人達と多大な義援金、援助物資など本当にありがとうございました。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

2ヶ月間子供の所に世話になりながら片づけをしてきた。やっと終わったが少し心配な所もあるが自分ひとりなのでもういいかなあとも思っている。

生活はどう変わりましたか

特に変化はない。

うれしかったこと、つらかったことは

近所とのつながりが強く、助け合えた事が幸せでした。

学んだことや教訓は

いつでもすぐ逃げられるように荷物を用意しておきたいと思うが、なかなか実行できない。

考えていること、悩んでいることは

これから災害が起きたら、ひとりなので不安です。

まちやぐらしの再生、復興で必要なことは

公民館が使えないのでどうなるのかなと心配している。

行政に望むことは

いろいろな通知が来るがよくわからない。わかりやすいものにしてほしい。

市外の人たちへのメッセージ

ありがとうございます。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

みなさんのおかげで大へんよい生活をおくらせていただいています。ありがとうございます。みなさんも体をたいせつにして下さい。

生活はどう変わりましたか

自分の家より、よい生活をおくっています。まことにありがとうございます。

うれしかったこと、つらかったことは

ひさいしたけれどもみなさんのおかげでよい生活を送らせていただきありがとうございます。

学んだことや教訓は

みなさんによくしていただきたいへんありがたく思っています。今回ヒサイしましたけれど自分もしみなさんになにかあったら自分にできる事があれば協力をしたいと思います。(び力ではありますけれど)

考えていること、悩んでいることは

家に早く帰りたいです。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

みなさんの協力かと思えます。

行政に望むことは

色々ありますが行政の方々も大変でしょうががんばってください。

市外の人たちへのメッセージ

市外の人々の皆さん。今回はたいへんお世話になりました。皆さんも体をたいせつに。最後になりますが大変ありがとうございます。







## 9月10日から今までどうすごしてきましたか

9月10日あつという間に水が来て大切な物と思い自分の物は衣類を含め殆ど2階にあげる事が出来ませんでした。2時間くらいまってヘリで救出されたのは暗くなってからでした。石下総合体育館に約3ヶ月お世話になって12月8日修理完了していい自宅に戻りました。皆様方に助けられて今があります。ジュントスさんから電気毛布届けていただいて本当にうれしくありがたいです。感謝です。

## 生活はどう変わりましたか

一昨日(12/12)炊飯ジャーを買ってきました。まずご飯炊きからだと思つて。キッチンはまだまだ。今2階で寝起きしています。1階部分の修理は2月中にできればよい方だと思つています。

## うれしかったこと、つらかったことは

大事な写真が水に浸かりながら半分ぐらい残りました。よかったです。ネコ達も全部無事でした。犬が2匹のうち1匹おぼれて死んでしまいました。自分の小屋に戻つて死んでいたことを思うととてもつらいです。屋敷に葬りました。チョビ(大きい犬でした)を忘れない。

## 学んだことや教訓は

助け合いのすばらしさを身をもってうれしく思いました。皆

さん輝いていました。本当にありがとうございました。

## 考えていること、悩んでいることは

12月8日に自宅に戻りました。風呂、レンジ、冷蔵庫、2階にトイレがありましたので、何とかあと炊飯器を購入しました。炊き込みご飯を作ったり工夫して食事をしています。風邪もひかず頑張っています。皆様のお助けをいただいてありがとうございます。1階部分は今のところ手付かずです。この冬は頑張るのみと思っています。少しずつでも前に進むことが今は大事なことのだなと思っています。待てば桜の花も咲きます。

## まちやくらしの再生、復興で必要なことは

活気あるまち・くらし望むところですが、具体的に何かわかりません。

## 行政に望むことは

いろいろと助けて頂いてうれしく思つて居ります。

## 市外の人たちへのメッセージ

災害にあわれなかった人達から他人事と思つてほしくないです。

9月10日から今までどうすごしてきましたか

5日間は娘の所に避難していた。家に戻れる様になってからは片付けをしながら2階で寝て、なんとか暮らしていた。食事をつくることも出来ないで、実家、友人、ボランティアの人達に助けをもらいながら買って来たものですませた。3ヶ月以上もなので身体の心配も出て来ている。

生活はどう変わりましたか

細かい物から何もかも失い、漬物タル、重石、アイロン等、主婦としてやるべき事が何も出来ない。

うれしかったこと、つらかったことは

思いもかけない人から電話、見舞、など会社の人達、サークル仲間の人達にはげまされた。つらかった事、思い出の品々、写真等、今まで40年以上かけて買い求めた物、すべて失った。カラオケをやっているが、9月10日以来、2ヶ月間、歌を聞く事、声を出して歌うことが出来なかった。

学んだことや教訓は

ボランティアの人達に頭が下がる。

行政に望むことは

市役所の人達が、残業、時間外労働等で給料100万だと言うことを聞いた。そんな事だからいつになっても先に出ないの

では、ボランティアの人達はお金をもらっていますか？



## 9月10日から今までどうすごしてきましたか

9月10日から18日まで豊里交流センターの避難所で生活。9月18日夜に泥棒に入られ2階が荒らされていたため自宅生活は無理があったが、現在まで自宅で生活しています。自宅の整理は9月14日から始め、1週間で1階部分の整理を終了した。その後、外周辺の整理及び改修業者との打ち合わせ、自宅で生活するための最小限の電気製品を購入し、電子レンジ中心の生活をしています。

## 生活はどう変わりましたか

自宅は、最初に風呂が入れるように改修を急いでもらい、9月28日に完了した。それまでは毎日夕方に近くのスポーツセンターなどの風呂に入りに行き、家ではただ寝るだけの生活が続く。毎日家の整理等が長く続き、非常に疲れた。このような非日常生活が長く続き、精神的に落ち込み、夜も寝れない日があった。

## うれしかったこと、つらかったことは

今回、災害で1階部分が全滅したため、たくさんの義援物資を頂いたことやボランティアさんの手助けは、非常に有難く感謝しています。また、復興にあたり改修資金について足りるだろうか等、資金面について不安があり、今後、年金生活者としてやっていけるかどうか不安の毎日です。今回の災害で、特に友人が入れ替わりに激励と手助けしてくれ、本当に有難く思っ

ています。

## 学んだことや教訓は

今回の災害で、正確な情報をどのように収集するか、避難時期の選択は何を基準にするか。また、防災組織を作り、訓練を実施したにも関わらず、組織を活用した住民同士の連携ができなかったことは、非常に残念であった。こういう災害時における区長を中心とした組織だった連絡体制を作り上げる必要性を痛感しました。

## 考えていること、悩んでいることは

改修費用の捻出。災害に伴う精神的痛みが残っていること。町会員がすべて戻ってくるのか。今まで野菜作りをして自給自足の生活を目指してきたが、耕運機が使用できなくなり、新規に買ってまで野菜作りをやるか。趣味の1つがなくなりそうである。今後の生活が不安。今まで介護予防に係わるボランティアをやってきたが、引き続きやれるかどうか気持ちが消極的になっている自分がある。

## まちやくらしの再生、復興で必要なことは

再生には、やはり改修するための資金。災害された方々には、一律に対応できないと思いますが、特に独居老人には手厚い待護の手を差し伸べて、安心できるようにして頂きたい。被害の程度の差があるが、被害の大きい家では再生するため常総市外

に転移しないような対策を考えてほしい。今後も安全を最優先にした行政施策を策定し実行してもらいたい。

#### 行政に望むことは

できる限りの資金補助。住民が転居しないための方策を考えてもらいたい。災害に対する住民への情報提供の在り方。今回の災害では、特に防災無線による情報提供をしたよつであるが、よく聞き取りにくかった等の意見が多く聞かれたので、防災無線での広報を同時に区長への連絡により、各町会員に情報が速やかに伝わると思われる。

#### 市外の人たちへのメッセージ

今回の災害に対し、多くの方々から義援金及び災害物資を配布していただき、深く感謝しております。又多くのボランティアの方々の支援をいただき、到底家族だけでは整理できなかつたことが、非常に早く家の屋内外整理ができました。本当にありがとうございます。今後は、お世話になったお礼はどうすればお返しができるか、考えていきたいと思ひます。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

ボランティア活動に協力しつつ自分の仕事、又地域の連絡、そのほかボランティアのニーズひろい。

生活はどう変わりましたか

生活は9月中は親類の家での避難生活。そして毎日かたづけ。

うれしかったこと、つらかったことは

ボランティアの皆様の協力が本当にありがたかった。そしてうれしかった。被害があまりにも大きい(金額的)のがっかり。でも逆くに頑張れたと思います。

学んだことや教訓は

かたづけや、避難などは常々考えること。早めに実施。本当にボランティアの皆様のおかげで次の機会には参加してみたいと思う。

考えていること、悩んでいることは

町内が活気がなく、機会をもうけて頑張れる様にして行く事です。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

人々が安心して居られる事  
仕事がある事

皆さんが協力しあう事が出来る様にしたい

行政に望むことは

まず身近な問題(ゴミ)を解決して頂きたい。住民と行政で話し合う機会をつくる事。行政も初めての事なので、改めても無理。首長も近隣の首長さんとのコミュニケーションがなかった気がする。

市外の人たちへのメッセージ

温かい言葉で皆様を励まして下さい。



9月10日から今までどうですかしてきましたか

避難先は谷田部総合体育館↓きらくやま↓伊奈総合運動公園  
↓あすなろの里↓親せき宅 八千代町↓森下 と転々としています

基本的には会社に出動していますが、休日は自宅リフォームの打合せ・片付けなどです。

生活はどう変わりましたか

朝は出勤前に自宅に寄るので早起きになりました。

被災した知人とは、情報交換するなど、まめに連絡をとっていますが、それ以外の知人とはほとんど連絡していません

うれしかったこと、つらかったことは

うれしかったこと

・室内がドロ水で汚れているとき、駆けつけてきて家財・ゴミの処分や水洗いしてくれた人がいた

・ボランティアさんが大変な作業（とてもきたない作業）をしてくれた

・多くの人に親切にもらった

つらかったこと

・避難所移動のとき、午後5時までに移動して下さいと言われ、早退して3時に行ったら荷物を片付けされていた。貴重品やなくなつた物などはなかったが、早く出て行って欲しいのかと思ひ悲しい気持ちになった

・又別の避難所で、管理者のあいさつで「早く自立できるように」と言われた

・市役所に、支援制度の事を聞きに行ったら「メ切まで時間あるから大丈夫」と言われたが、私は間に合わなくなるのを心配したわけではなく、早くお金が欲しかったのでみじめな気持ちだった。

学んだことや教訓は

早めに避難すること

遅れたら無理しないで助けを待つこと

※私は逃げ遅れてしまい、夜中に避難したのでおぼれそうになった

考えていること、悩んでいることは

あと2〜3週間で取り急ぎのリフォームが終わるが、住宅ローンに加えて、今回のリフォームローンがプラスされ今後の生活費に影響してくる

行政に望むことは

今後同じような事があった場合、避難指示や支援制度を私たちに早く正確に伝える方法を考えてもらいたい。

放送、ネットでは全員に伝わらないし、外出していたらわからない

宣伝カーを出すとか、町内会の中で、連絡する人を数人決め

ておくとか

市外の人たちへのメッセージ

自宅に帰れない人、不自由な人、亡くなった人、困っている人がたくさんいる事を忘れないようにしたいと思います。

私はもうすぐリフォームした自宅に戻ります。お見舞いいただいた方とパーティーすると思いますが忘れないようにします。

大勢のボランティアさん、たくさんの方々のおかげでいただきました。ありがとうございました。





9月10日から今までどうすごしてききましたか

9月10日1時40分頃市役所に2夜二階の廊下に毛布1枚で寝てました。12日朝からあすなろの里に移動の話が出ましたが車がどこから出るのか受付で聞いてもわからず、結局あすなろに着いたのは午後2時でした。あすなろでは、あたたかいごはんにお風呂も入れて生き返りました。支援の着るものももらえて着替えもできました。市役所にいたら殺されたような感じですが、11月30日まであすなろの里でお世話になりとてもありがたかったです。大塚戸のボランティアの皆さんには大変お世話になりました。

生活はどう変わりましたか

車が市役所で水没してしまい移動手段もなくなり自宅も床上百八十cmになり帰る家もなくなりました。いままでやれていたボランティア（シルバリーハビリ体操）等がやれなくなり、シルバークラブの活動もできなくなりました。

うれしかったこと、つらかったことは

友達からの支援（衣類、炊飯ジャー、せんたく機、冷蔵庫）がとどいたこと、たすけあいセンター「JUNOTOS」からのガスコンロ、ラジオ、電気毛布等もらったこと、ボランティアセンターからの電子レンジやざぶとんをいただいたこと等とてもうれしかったです。看護師さんたちが交代できてくれたこととても力になりました。つらかったことは市職員につめたくさ

れたこと。

学んだことや教訓は

市役所の職員の中にはつめたくつつけんごんの人もいました。「この人達早くいなくなればいいのにね」と言っていた人もいました。電話が繋がらないとき、ケイタイをかしてくれて番号も調べてくれた人もいました。とてもうれしく職員だから悪いという思い込みはいけないと思いました。

考えていること、悩んでいることは

早く元の生活にもどりたい。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

地域によって違うと思いますが、住民同士のコミュニケーションがとれるようになればいいとおもいます。

行政に望むことは

市役所に避難して水没した車等の全額とは言えませんがせめて半分ぐらいは補償してもらいたい。天災だけでなく人災もあり、報道は若宮戸と三坂町しかしてませんが八間堀のことを書いてくれたのは東京新聞（10月23日）、朝日新聞（11月26日）だけです。これからもしっかりと国、県、市と二度とこのようなことが起きないようにしてもらいたいです。



市外の人たちへのメッセージ

いろいろ支援していただきとても助かりました。ありがとうございます。皆さんも体に気をつけて元気でお会いしたいと思います。

9月10日から今までどうすごしてきましたか

当日は深夜に避難しました、最初の40日間は親類にお世話になっていました。県・役所のあつ旋により抽選で公営住宅に入居でき、早や70日が過ぎようとしています。被災自宅の片付け清掃等をする毎日です。往復35km

生活はどう変わりましたか

想像できない状態です。すべてが無になってしまい放心状態でした。リサイクルショップで、中古家具・食器・衣類等を調達している心細い生活ですが、「たすけあいセンター」の人たち、「つくばサテライト」の方々に勇気をいただき、ご支援により気丈になって参りました。大変感謝しております。

うれしかったこと、つらかったことは

市の防災無線が聞き取りにくく、情報はほとんど得ることができませんでしたが、ボランティアの方々の応援でヘド口の掻きだし集積、窓ガラス掃除等をやって頂き大助かりしました。また、買い物に行く自転車を「たすけあいセンター」様から調達していただき家内が大いに重宝しております。感謝！ 感謝です。ありがとうございました。

学んだことや教訓は

「人様の面倒をみることに。他人様に迷惑をかけない」を理想としておりましたが、逆転してしまい人の温情をこれほど実感

したことはありませんでした。70代半ばになってしまいました。が、再起し、恩返しをしなければと痛感しております。

考えていること、悩んでいることは

50年間住み慣れた常総ですが、再度の水災害が心配です。住む場所を決められない状態です。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

この地（被災場所）で再生活が安心して可能かどうか心配です。

行政に望むことは

緊急時の対応が、なされていないのは、人間だから無理かな？市の財政は厳しいらしい。まだまだ避難者が、多くいることを忘れないでください。国政は、国民のために予算配分を最優先に考慮して欲しい。多額の海外援助・融資は疑問が多いが、お付き合いは無理かな

市外の人たちへのメッセージ

公営住宅に入居できて2か月が過ぎました。自治会会長・棟幹事はじめみなさんに「心配いただいています。清掃作業の行事に参加した際も親切に接して頂きました。何か月間お世話になるか予想もできませんが、できる限りの協力をしたいと考えております。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

- 9/11～10/10まで つくばみらい総合体育館、
- 10/10～12/1まで きぬふれあいセンター、
- 12/1～12/21まで 水海道森下町

生活はどう変わりましたか

自分の財産など全てなくなり、新しくなりました。

うれしかったこと、つらかったことは

ふれあいセンターで夕食に出る温かいみそ汁と一品のおかず。つらかったことは、集団生活。

学んだことや教訓は

世の中、独りでは生きていけない。助け合いの心、思いやり。

考えていること、悩んでいることは

市営住宅ですが、室内は入居できましたが、外観はそのままなので汚れがひどいので、なんとかして欲しいです。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

災害者全員にいきわたる様な情報を流してほしい。独居生活では、取り残されてしまう。

行政に望むことは

義支援、見舞金をわかりやすく、早くほしい。

市外の人たちへのメッセージ

市外のボランティアしておられる方々、寒い中大変だと思いますが、数が少なくなっていると聞きます。どうか頑張ってください。よろしくお願いします。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

少しずつ通いながら、どうにか自宅を過してしています。今まで自分の土地は安心だと甘い所が、ありあり見せつけられました。避難することだけで、物を上げるという意識がたりなかったように思います。だからこそ失ったものが多かったように思います。

生活はどつ変わりましたか

今まであったものがないということ、買うという気持ちになれなくて生活がしづらいです。

うれしかったこと、つらかったことは

見ず知らずの人達の差し入れ、声かけ。ジュントスさんのたびたびの炊き出し、差し入れ、ありがたく思います。家の中、家の回りの水位の汚れをみると、今でも涙が出ます。

学んだことや教訓は

自分で嬉しかったことなど、何かの形で協力したいと思えます。

考えていること、悩んでいることは

自分の生きている時代位は住めると思う気持ちで1年前にリフォームしましたが、これから何百万もかけて直すことは無理なので、若い人にまかせて、新築する予定なので、不安があります。

まちやぐらしの再生、復興で必要なことは

常総の商店の復興をしないと、どんどん暗くなっています。明るい町作りしてほしいです。買物もどんどん外へ行ってしまう。

行政に望むことは

街の復興の予算を下さい。

市外の人たちへのメッセージ

大変ですねという言葉をかけて下さっても、被害にあった人でないとわからない。常総の街に来てみて下さい。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

私は高齢者の一人住まいです。停電、断水、夜はみんな家にいなくなつて、外は真っ暗闇、現在は家の修理で毎日職人さんが来ています。

生活はどう変わりましたか

家で毎日忙しく3か月たったのに何も変わっていない。

うれしかったこと、つらかったことは

ボランティアの人たちの助けでとても元気づけられました。犬を連れて避難した体育館には入れず3日3晩犬と校庭で座っていました。これが限界と川越の子供の家に行き初めて足をばして寝ることができました。

学んだことや教訓は

水害にあつて、3・11や広島の災害やいろいろ襲ってきました。被災者はみんな一生懸命に明日に向かって希望を持って進んでいこうと思います。

考えていること、悩んでいることは

私は今78歳です。老後のためにとつておいたお金は全部家の修理にかかってしまいました。この先のことを考えるとどうしているのかわかりません。子供達二人も近くに住んでいるので水害にあい自分のことは自分で人には迷惑はかけられません。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

若い人たちが常総市から他の市町に出ていくのを聞くともさびしいです。つくば市ばかり発展して、少しは常総市にも国の大事な機関を作ってほしいです。

行政に望むことは

私達はいままできまつた税金をはらうため一生けんめい働いてきました。これからは安心して生きていけるようにしてほしいです。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

あと片付け、大工さんに修理の依頼とお茶出し。大量に捨てるをえなかつた家具の最小限の買い歩き。

生活はどう変わりましたか

ガーデニングが趣味で大量に花を咲かせていたりしたがそういう意欲はなくなった。とにかく周りに置くものは最小限にと。

うれしかったこと、つらかったことは

うれしかったことは遠くの親類がすぐに駆け付けてきて手伝ってくれたり、同じ町内でも被害のなかつた親類が家族総出で後片づけを手伝ってくれたこと

つらかったことは、華道の看板や茶道の道具、思い出のアルバム、何十年と一緒だった昔贈られた大きなアメリカ人形等も捨てたこと。

学んだことや教訓は

皆さんからの好意での義援金はとてもありがたいと思いましたが。私自身関東大震災の募金に協力し、生協に入っているので、たまつたポイントは品物に替えずささやかでもいろいろな募金の方にはしていますが、これからも助け合うという気持ちはとても大事だという事を常に思っていたい。

9月10日から今までどうすごしてきましたか

あすなろへ13日に避難（手をケガしたので）家族と小絹へ行くが骨折してしまい家族にすまない気持ち。病院へはボランティアに送迎してもらった。自宅は1月中旬から大工が入る。

生活はどう変わりましたか

畑仕事をずっとやってきたが今はできない。↓やることにならなくなってしまった眠れなくなり安定剤を飲むようになった。

うれしかったこと、つらかったことは

一緒に共同生活は大変だった。送迎ボランティアにはお世話になった。

考えていること、悩んでいることは

お金の心配（自宅の修理費）

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

お茶のみ出来る様な場合話が欲しい以前は健康体操していたが今はない

行政に望むことは

補助金だけでは修繕できない。避難2月までだが家は修繕完了しない。

9月10日から今までどうすごしてきましたか

次の日の朝まで二階ですごしました。ボートに乗せていただき迎えに来てくれた娘の所で一週間世話になりました。家に帰り買い物で忙しい毎日でした。おにぎり、パン、水などをいただき炊飯器を買ってごはんをたく生活から始めました。家の方も知人の紹介で早く直すことができました。

生活はどう変わりましたか

二階のものは、全部残りしました（一部）やはり何もかも失ってみると初めて不自由なのがわかりました。ボランティアで炊き出し、体育館での品々、本当にありがたく思いました。

うれしかったこと、つらかったことは

ボランティアの方々のおかげで食の方はずい分と助かりました。何しろ食べる事での不満はありましたが、夢中でやっていたので、そしてずい分と助けていただいていたうれしかったです。足腰が棒のようになり、長靴での生活はつらかったです。

学んだことや教訓は

生まれて初めての事であり、人のやさしさに心から感謝しています。昔は実家では床下浸水位でしたのでおそろしさは実感してみて初めてわかりました。（今回）

考えていること、悩んでいることは

夢中でやって来たのですが少し落ち着いてくると生活面で考えることです。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

今までは災害のないいい所だと思っていました。これからは人が少なくなつて再生復興にはみんなが前向きであり、ゆとりのある生活を心掛ける事です。

行政に望むことは

ごみの始末は（廃材）どこへ捨てるのか、業者に頼むしかないと言われました。見積もりの中に入っている値段は大きいです。

市外の人たちへのメッセージ

ボランティアの皆様、こんなによくしていただいております。ありがとうございました。汚い工事も力仕事も大変でした。今後よろしく願います。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

9月10日からつくば市の姉の家に避難しました。9月27日からはアパートを借り、夜は泥棒がでるということで自宅2階に父が寝泊りをしました。

生活はどう変わりましたか

1階部分がほとんど泥水に浸かってしまい何もなくなってしまったので、すべてを揃えるのは難しい。

うれしかったこと、つらかったことは

写真がダメになってしまった事。趣味のものは後回し。なくなっても手に入らない事。とにかくすべてがなくなってしまった事。皆が手伝いに来てくれて、自分たちだけではどうにもならなかったが片づけられた事。

学んだことや教訓は

いつ何が起きるかわからない。早めの準備、保険が大事。

考えていること、悩んでいることは

今回リフォームしたが、高台に家を買う人もいる。このまま住んでいて大丈夫だろうか。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

町中の細い道は、本当に大変だと思います。道の整備と区画

整理は必要だと思います。

行政に望むことは

川に挟まれた町なので、護岸工事を望みます。せめて役所や消防署などは高台に移す方が良いと思います。

市外の人たちへのメッセージ

水害は周りから見たら元に戻っている様ですが、家の中は壁や床が剥がしてある状態がほとんどです。頂いたものにも限りがあります。これからもどうかご支援をお願いします。



## 9月10日から今までどうすごしてきましたか

家の1階が1m以上の水に浸かり住むことが困難になり、すぐに修理を受けてくれる工務店や大工さんが見つからず、水海道一高、あすなろの里、ホテル野村屋と避難所を転々としています。

## 生活はどう変わりましたか

食事、お風呂などの時間制限や、ナンバー付きのカードによる出入りのチェックなど、今まで当たり前に行っていたことへの制約や、狭い部屋での他人との共同生活などです。

## うれしかったこと、つらかったことは

うれしかったことは、ボランティアの皆さんが被災者への気づかいや思いやりを持って接してくれたことと、壁や床の剥がし、断熱材の取出し、床下の泥かきをもらったことです。つらかったことは、自分の家の壁や床を自分の手で壊さなくてはならなかったことです。

## 学んだことや教訓は

世の中には様々な事情がある人、いろんな性格の人がいるということ。特に感じたのは避難所の中で親身になってくれる人もいましたが、逆に、まるで自分が収容所の看守になつてくれる人かのような横柄な態度をとる人もいました。そんな少数の人のために常総市全体が人への思いやりのない、やさしさのない市

だと思われるし、他の職員もそんな態度をとる人なのではないかと不安に思ってしまう。

## 考えていること、悩んでいることは

家を直すための資金繰りや家財道具などをどれだけ買い揃えることができるか不安なことばかりです。

## まちやくらしの再生、復興で必要なことは

行政が被災者一人一人の声を聞くこと、被災者の想いや意見を聞かないで町だけきれいでも人々のくらしが本当に復興できたとはいえないと思います。

## 行政に望むことは

個人ではなかなかできない被災ゴミの処分をしてほしい。まだまだ被災ゴミが出ているのに、ゴミ捨て場で収集されないゴミが出る一方です。分別できていない被災ゴミの処分もお願いします。

## 市外の人たちへのメッセージ

会ったことの無い私たちに、多大な義援金、援助物資などありがとうございます。なによりも多くのボランティアの人達のおかげで、私たちは前へすすむことができました。本当にありがとうございます。

9月10日から今までどうすごしてきましたか

私の実家に避難し、今は自分の家に戻り二階で毎日生活している。新しく家を建てられることが嬉しい。

生活はどう変わりましたか

人間的に皆様や自分も暗い毎日の暮らし送る。顔で笑って心で泣く人が多いことがよくわかりました。

うれしかったこと、つらかったことは

家を解体して新しい家を建てること。先が真つ暗で生きる希望なしの時、私達も76歳になって苦しい。政府も何なし。もう少し国のためになる政府でもらいたい。自由民主党はだめだ。

学んだことや教訓は

人間らしい心。思い遣りです。一番大事なことは。

考えていること、悩んでいることは

お金です。私も高齢者で脳梗塞、心臓バイパス手術を受け生きていくが？

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

お金以外は何もない。

行政に望むことは

安倍首相外国などばかりお金を撒き散らすことを。もう少し考えて自分の日本の国を大事にすること。考えてほしい。

市外の人たちへのメッセージ

顔で笑って心で泣く常総市の皆さんの気持ちです。腹の底から皆特に聞く言葉です。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

- ・9/10は家にいた。
- ・被害は床上1m
- ・翌日ボートに乗って避難→避難所半日→親せき→今は自宅に(リフォーム中)

生活はどの変わりましたか

- ・玄関を使えるようになった
- ・予備のキッチンがあつたので自炊はできる

うれしかったこと、つらかったことは

- 友人が片付け手伝いしてくれたこと
- (つらかったこと)常総市の名が広がった(!?)

学んだことや教訓は

- 「すぐに逃げろ」ということ
- 警報をきくこと

考えていること、悩んでいることは

- 金銭的→リフォーム

まちやくらしの再生、復興に必要なことは

- ・金銭的支援→年齢によらず現金で→個人にいきわたるように家を直す資金

- ・一人一人の意識が必要

行政に望むことは

- 対応が遅い(後手後手)→産業はいき物のお金等矛盾

市外の人たちへのメッセージ

- 義援金、ボランティアありがとごいいます



9月10日から今までどうすごしてきましたか

きぬふれあいセンターに行き少しほかに行き、9月22日にあるなるの里にお世話になりました。マッサージや色々と考えてくれて足のむくみもだいぶ良くなりました。ボランティアさんがいまして、ありがとうと伝えたいです。

生活はどう変わりましたか

何もなくなつて家に入られなくて不便なことだらけでした。誰もが同じだからと思いました。皆さん良くして下さいとお礼も言えないまま会わなくなったことが残念です。

うれしかったこと、つらかったことは

- ・プライバシーが守れなかった事
- ・皆さんとお話できてイベントに参加できたことオーディー
- ・ハッピーバーンの映画も見れて楽しかったです。

学んだことや教訓は

皆さんと手をつないで頑張つて行く事です。一つの輪になつて、力を合わせて生きていく一人では生きていけないと思いません。

考えていること、悩んでいることは

リフォームが大変です。おばちゃんとうまくやっていくのができないかなと悩んでいます。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

皆さんで協力しあうことですね。

行政に望むことは

むずかしいですね。

市外の人たちへのメッセージ

市外の人達にはいろいろとつくしていただき、感謝しています。助け合いができたらいいなと思います。



## 9月10日から今までどうすごしてきましたか

私は水没後、一晚主人と自宅2階に居ましたが、翌日は太陽の照り付けが厳しく身体が熱っぽくなりましたので、ポートで豊岡小に運ばれました。蚊と天井の電気の眩しさとイビキの中とても一日だけしか持たないと思い東京の娘、甥、取手の友人、泊りの公衆浴場等を転々として、水が引いてから自宅に戻り、水道、電気のない自宅で片付けしながら2〜3日は無我夢中で覚えていません。それからボランティアさんをお願いして一階の荷物を全部すてました。毎日毎日吹出してくるカビとの戦いでしたが、10日目程で風呂にも入り、カートリッジのガス台で料理をして少しづつ生活を取り戻してきました。とにかく身体が疲れて疲れてマッサージにもかからないと倒れてしまうかと思つて過こしました。

## 生活はどう変わりましたか

片付けで腰膝が痛くて心はうつ病のようになりました。毎日野菜と果物が不足している感じでもとても食べたかったです。僅かに残った衣類ですが、今年は暖冬で助かりました。

## うれしかったこと、つらかったことは

やはりボランティアさんに手伝いして頂いたことは一番慰めとなりました。夢中でしたので最近の方が幸せを感じます。喪失感と虚無感から無気力になります。

## 学んだことや教訓は

人に助けられる有難さと難しさ。人様のご厚情が身に染みましました。今後、反対の立場になったときは進んで、率先して、力を貸してあげたいです。人と人とのつながり、連携不足で大事に至ったと思います。もっと皆で危機管理意識を持ち日頃から結束できるような関係が大切と思います。

## 考えていること、悩んでいることは

せまりくる老後、家の修理等です。近隣の方々がこの土地にこれからも一緒に住んで共に生活していけるのでしょうか。

## まちやくらしの再生、復興で必要なことは

皆が又この土地で暮らそうと思えるように人々のつながりとうつかり、心を通わせる方法があればぎつと前向きになれるそうです。

## 行政に望むことは

地球温暖化、異常気象と言いますが、人間同士のつながりが欠如していると思いますので日頃からもっとソフト面で動いてほしいです。

## 市外の人たちへのメッセージ

どんな災害も人事ではないということと隣の事はやがては自分たちの問題として間接的にも影響が出てきます。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

最初、市役所へひなんしました。次に、あすなるの里へひなんしました。

生活はどう変わりましたか

他人との長い共同生活で、ストレスを感じました。

うれしかったこと、つらかったことは

色々な人に助けられてうれしかったですし、感謝しています。

学んだことや教訓は

ボランティアの人たちが、たくさんやさしくしてくれました。こんなにも良くしていただけとは思っていなかったのでおどろきもありました。

考えていること、悩んでいることは

主人の体調のことです。あとは住居のえいせい面に不安があります。

まちやくらの再生、復興に必要なことは

一日一日を元気に過ごすこと。

行政に望むことは

ぎえん金をいただくと、生活保このお金の支きゆうが止まる

システムに不安をいただいています。かいぜんを望みます。

市外の人たちへのメッセージ

ともにがんばりましょう。





9月10日から今までどうすごしてきましたか

命がある事の幸せをしみじみ感じました。まず、今日、1日、しっかりと過せば明日に繋がると思い、気がついたら、今日があります。我家の合い言葉は「命があれば、何でも出来る」です。

生活はどの変わりましたか

家を流され、車も流され、身一つで、スタート。今まで使っていた物を全部、買い揃えなければならぬストレス。35年間で買い集めた物が数ヶ月用意出来る訳がないですよ。時間とお金がかかるので大変です。通勤路も変わり遠くなって神経を使います。

うれしかったこと、つらかったことは

周りの皆様の暖かい、ご支援が気持ちを癒やして頂きました。心より感謝致しております。

学んだことや教訓は

経験は思いがけない時に活躍出来る事が。今回の濁流に流された時、水中の中で50年前(小学生)に溺れた時の事を思い出し、その時と同じ様にとっさにジャンプをして水面に上がる事だけを考え、迷いはなかったです。若い世代の方々に辛い時でも逃げない、嫌な時でも工夫して乗り越える先には必ず、強い自分がありますよ。

考えていること、悩んでいることは

有りません。今日無事過ごす事で明日にバトンを渡せる事を心がけて先を考えるより今です。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

一人、一人が意識を持って、行動して行く事です。

行政に望むことはなんですか

全壊の人達の事を良く考えて頂ける事を願っております。どれだけ出費がすごいのか、自分達の家の中の物を計算して見て下さい。私達は悪く無いですよ。その分の金額を上乗せして下さい。宜しくお願い申し上げます。

市外の人たちへのメッセージ

自分を信じて、自分の考えで行動して下さい。迷いは駄目です。「何事もです」。

## 9月10日から今までどうすごしてきましたか

水害直後、母と2人豊里交流センターに避難をし、母は中で、私は猫がいたため車の中の生活。母は体調を考え、弟の家に1週間後に移動しました。私は、車上生活で10日後、足に異常なむくみが出て、医者に行くところエコーノミー症候群と言われ、猫だけ車で私は避難所の中での生活にしました。10月10日の閉鎖まで交流センターですごしました。この期間、一番困ったのはお風呂です。たまたま父の妹のおばが交流センターの近くに住んでいて、そこでもらい湯をしていましたが、毎日とは言えずつらかったです。10月10日からはあすなろの里に移り、現在の宿舎に移る迄生活していました。息子は水害当初、消防団の一員として、救助活動にあたり、かろうじてすめた家の2階で宿舎に移るまで離ればなれの生活をしていました。

## 生活はどう変わりましたか

10月2日に母が敗血症で1カ月入院し、それから10日後、慣れない宿舎での生活の中、夜トイレにおきてふらつき手の指を切り、それも治ったやさき、12月16日夕方ころんで骨盤骨折で今現在入院生活を送っています。私と息子も並木から職場まで、今までの倍通勤時間がかかり、2人共に夜中におきて出かける事もあり、体はかなり厳しいものがあります。母にいたっては、私達に捨てられるという思い込みが芽ばえてしまい、心も体も不安定になってしまいました。

## うれしかったこと、つらかったことは

ボランティアの方々の思いやりのある言葉と行動です。又、どこから手をつけていいのかわからない家のかたづけの時、息子の同級生や友達が、すぐにかけてくれて、手伝ってくれた事です。何よりも涙が出る程嬉しかったです。つらかった事は、今までずっとです。あの日から、今もつらい思いは続いています。家が建替えられて、家族3人と愛猫の、のんちゃんと、常総市にもどるまで変わらないと思います。自分の家が水の中にある光景に涙が止まらなかったあの日の事は、忘れられるものではないです。

## 学んだことや教訓は

私が思う事は、何に対しても行政の対応は遅いと思います。それと、今家には固定電話がありません。こういう場合に限り、宿舎でも今までの電話がつかえる様な対応があってもいいと思います。又、新築する家は、水害、地震に強い家に立て替えてもらう事にしました。自分の家が、こんなにもろい中に建っているとは考えていませんでした。

## 考えていること、悩んでいることは

やはり、お金の事だと思えます。解体にあたって木々の伐採、家電の撤去費用、そして宿舎の共益費、入院費等、かなりまとまったお金がかかりました。職場のパートさんも水害にあった方がいますが、やはりお金が1番のネックになっていると言っていました。

9月10日から今までどうですか、生きてきましたか

水害後毎日毎日休みなく片付けをし、肉体的にも精神的にも疲れはててしまいましたが、つくばの交流会に出席させていただいてからは、お陰様で少しずつではありますが前を向ける様になりました。

生活はどう変わりましたか

・官舎の生活で近くに知人もおらず心細い毎日ですが毎月ジュントスさんが交流会を開いて下さる事を楽しみにしています。  
・12月26日の交流会では多くの支援物資をいただき、特に食器類がそろったので食事を作る気持ちになりました。今までは毎日お弁当等出来た物で生活をしていました。運営していただいている皆様感謝致しております。ありがとうございます。

うれしかったこと、つらかったことは

・ジュントスさんには色々助けていただいてありがとうございます。家の片付け支援物資引越等々こままっている時にTEしすると親身な対応で敏速に要望を叶えていただきました。心細かった折、とつてもうれしかったです。この場をおかりして、代表を初めスタッフの皆様にお礼申し上げます。

・その他多くのボランティアさん（大阪ダッシュ隊のたけちゃんマン、トムさん、守谷高校生、常総学院生、ボランティアセンター等々の方々）片付けを手伝っていただいている時は神様のように見えました。ありがとうございます。

学んだことや教訓は

今後は気象情報や回りの気象を常に意識し、最悪の状況になった時の事を考えて、災害が起きたら、どの様に行動したら良いか日頃からシミュレーションをしながら生活したいと思えます。

考えていること、悩んでいることは

官舎にお世話になっていますが、自宅は取り壊す予定で、再建は難しく2年後にむけて、どの様に対応したらよいか毎日悩んでいます。

（1年半前に外壁、洋室、脱衣所、屋根、ベランダ等タリフォームしたばかりの為ショックが大きく再建が出来ません）

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

市内の水害にあっていない人が自分の家は東側が切れたので助かったと言ひ、ヤジ馬的に水害の状況を聞いてくると避難所で度々耳にしました。水害に合っていない人達がもっと行動を興し、皆で一緒に（人ごとでは無く）コミュニケーションが取れるような場所があれば良いと思います。

行政に望むことは

復興住宅、市営住宅を作っていたいただき、災害があつた多くの人が入れる様にいただければ、避難先から戻り人口流出の歯止めになると思います。

市外の人たちへのメッセージ

つくば市の学院大学の先生、市民活動センターのスタッフの方には引越後直後から親身な対応をしていただきありがとうございます。ございました。

全国のボランティアさんが片付け、マッサージ、整体、炊き出し、コンサート等々で来ていただき、支援物資もたくさん寄せていただきました。ありがとうございました。

なにかの折にはこのご恩を全国の方にお返ししたいと思っております。

常総からつくばにお越しになったみなさんへ

## 交流会のご案内

2016年  
**9月24日**  
(土)  
14~16時  
(入場自由)

**参加無料**

つくばに仮住まいされている方向士で、お茶とお菓子を囲んで、ゆったりとお話しましょう。常総やつくば、それぞれの地域情報をお伝えするコーナーもあります。ぜひ、お気軽にお越しくださいませ。

会場：つくば市民大学  
(つくば市常盤井15-2 4階 405号室SF)  
お車でお越しの際は、道路を挟んで向かい側の筑波銀行に駐車いただけます。(車庫が狭いです) ※送迎をご希望の方は、ウラ車をください。

お問い合わせは…  
029-828-8891 (つくば市民大学) 常総課・ホ・エ・日 13~18時のみ  
Eメール: 029-828-8891 (つくば市民大学)

主催：たすけあいセンター Juntos(ジュントス) つくばサテライト  
※つくば市民活動センター・筑波学院大学災害ボランティアセンター  
つくば市民大学・つくば子ども劇場が連携して運営しております。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

仕事をしながら休日は家の掃除や片付けに追われ、現在はリフォームの為アパート生活しています。

生活はどう変わりましたか

気持ちに余裕がなく、楽しみがなくなつた。

うれしかったこと、つらかったことは

人とのつながりの有難さを改めて感じた。  
情報が少ない為、市役所へ何度も足を運ぶのが大変でした。

学んだことや教訓は

避難指示が出たらすみやかに行動すること。  
自然災害を甘くみない事。

考えていること、悩んでいることは

ゲリラ豪雨や台風で脇道が冠水するので、また浸水するのではないかと不安。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

水害のまちの悪いイメージを取り除けるような魅力あるまちづくりを目指す。

行政に望むことは

二度と同じ事が起きることのない様に整備を早急に進めてもらいたい。被害者に不快な思いをさせるような対応をせずに柔軟に接して欲しい。

市外の人たちへのメッセージ

水は引いて、今現在何もなかったかのように見えますがリフォームする事がままならず、不衛生な生活をしている人たちもまだまだいます。東日本大震災は今だに騒がれています。常総市の水害は日に日に忘れられつつあります。しかし、まだまだ正常の生活に戻れていないのが現状です。引き続きあたにかいご支援よろしく願っています。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

知り合いの家にお世話になりました。生活用品がなにもなくなり辛い生活。

生活はどう変わりましたが

今まで質素な生活をしていましたが水害ですべてをすててしまった事です。

うれしかったこと、つらかったことは

着る物をいただいで本当に助かりました。長年住み慣れた家を失う事になった事が大変つらかった。ボランティアの方々助けられて大変うれしく助かりました。感謝しています。

学んだことや教訓は

自主的に避難する事皆さんと手をつないで頑張って行く事だと思います。

考えていること、悩んでいることは

健康に気をつける事経済的な不安。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

皆さんと協力し合う事だと思います。

行政に望むことは

平等に？

市外の人たちへのメッセージ

感謝しています。



9月10日から今までどうすごしてきましたか

3日間避難生活。それから畳、家具等が無い家に戻り生活をしました。今はリフォームもたいして出来ない家で生活しています。

生活はどう変わりましたか

家具等が買えないので不便な生活をしています。

うれしかったこと、つらかったことは

友人（女性）から衣類や食品等をたくさんいただきありがたかった。

学んだことや教訓は

命を大切にすること

考えていること、悩んでいることは

生活がくるしい。

まちやくらしの再生、復興で必要なことは

早く元のくらしに戻りたい。

行政に望むことは

復興を早くしてほしい。

市外の人たちへのメッセージ

他人事ではなくいつ自分の身になにかあるかわかりません。気をつけて生活してください。



How have you been from September 10th until now?

During that typhoon I am on duty. I am in same place in Joso shi Nakatsuma.

How has your lifestyle changed?

It is change a lot because all our things were destroyed by water.

Have you had any positive experiences?

Yes, because 4 years ago I experiences the tsunami big earthquake on march .11 2011.

Have you had any negative experiences?

Yes, I am stress because I can not go to my work.

What have you learned from this disaster?

You must be ready everyday.

Any thoughts or worries about the future?

I am alone working.

What do you think is necessary and important in reconstruction and rebuilding of everyone's daily lives?

To save for the future.

What do you hope the government to do?

I am thankful for the Japanese government in attending our need during that time.

Do you have any message for people outside the city?

I am so thankful for people out side the city who extended help to Joso shi. Thank you so much!





あると感じることができました。今日、私も日本の歴史の一部となるでしょう、それはとても特別なことです。



## ぬくもりのバトンから読み解ける声、キーワードの分析結果報告

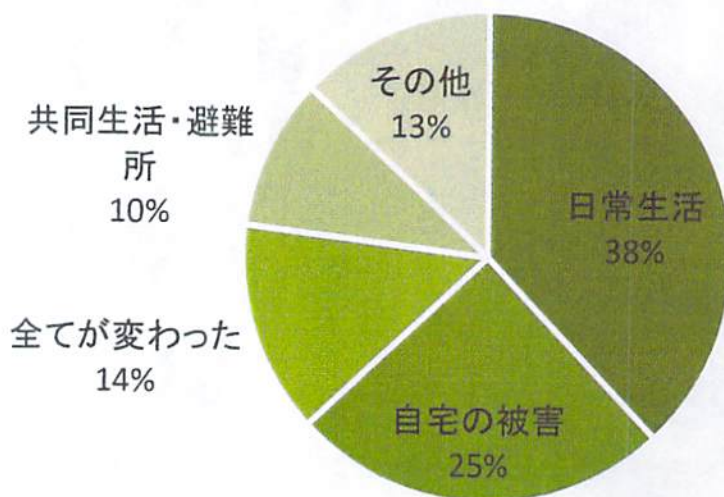
ぬくもりのバトンで送られてきた手紙の内容を分析しました。8つの設問ごとに分析を行い、共通しているキーワードを抽出し傾向を分析しました。  
 見えてきた傾向としては多くの方が、ボランティアや外部からの支援に感謝を示している一方で、家が被災したことによる経済負担とそれに見合う支援が十分になく、金銭的な負担がいまだに多くの住民に残っているということが傾向からうかがえます。また、このような災害を想定しておらず苦しい状況に十分に支援もなく立ち向かわなければならない現状がみえてきます。さらに今後の常総市の将来については「たすけあい、支えあい」が大切であることも多くの方が述べているところです。  
 最後となりますが、こちらのデータ集計分析に協力いただいた茨城大学のグループ「聞き書き隊Notes」の皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。

### 質問①9月10日から今までどうすごしてきましたか。

一回転居	35	38.5%
二回転居	35	38.5%
三回以上の転居	21	23.1%
合計	91	

水害により、直接的な住宅への被害と、断水、停電等で、自宅では生活できず、生活の場所の転居を強いられる方が大半です。しかも、それは1度でなく、3回以上転居が必要となった方たちも2割以上みられます。避難所、公営住宅、親せき、知人の家、自宅、どこに避難するのがよいのか常に選択にせまられる日々だったことがうかがえます。他にもどんなことをおこなったかという記述や、気持ちがどうだったかを書いてくださっています。

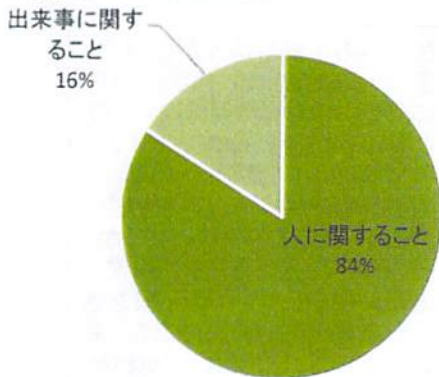
### 質問②生活のどこが変わりましたか。



38%の方が日常生活の変化を25%が自宅についての発言、14%が生活のすべてが変わったと発言していました。大きく生活が変化せざるを得なかった人が多くいることがわかります。日常生活の変化の中では、気持ちが落ち込んでいることや、習慣だったこと趣味だったことがなくなってしまうことが多く述べられています。自宅の被害では、金銭的負担に関する発言が多くみられました。避難所生活のつらさの声が目立ちます。

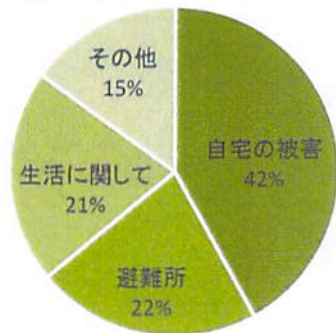
質問③嬉しかったこと、辛かったことはどんなことですか。

嬉しかったこと



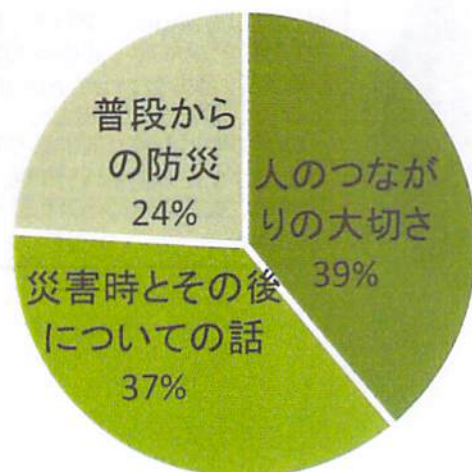
嬉しかったことについては84%の人がボランティアや知人や親せきなどの人に関することの喜びがみられます。出来事については物資や日常生活への支援があがっています。さまざまな外部からの支援が被災者の方の心も数ヶ月たった後もよい思い出としてささえていると読み取れます。

辛かったこと



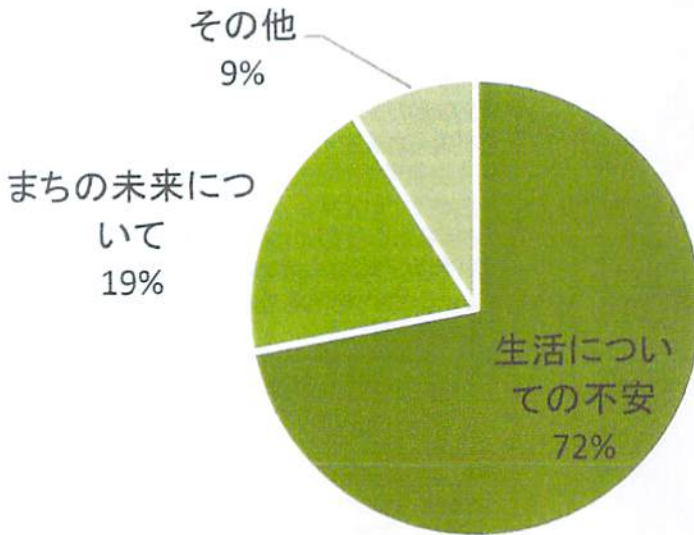
辛かったことについては42%が自宅の被害についてあげ、22%が避難所での生活に関してをあげています。21%は避難所以外での生活に関してあげています。大切なものや、家のものがすべてなくなったことや、生活に不便になってしまったそのものをあげる方が多くみられました。

質問④今回学んだことや教訓はどんなことですか。



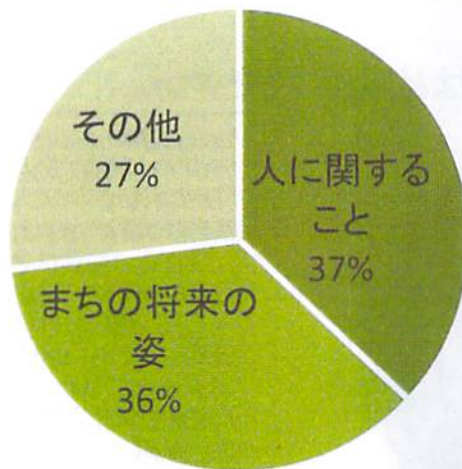
もっとも多かったのは、ボランティアや、親族、友人などのつながりの大切さ学んだことです。2番目は災害の被災とその対応について、3番目は普段からの防災についての話がでています。中でも、恩をうけたので、自分も恩返しをしたいという声や、協力したいなど、将来に対して自分の態度を変化させたという声も見られました。自主的な早めの避難や、災害への準備をしていて、自分ができたことにたいしてよかったという声も多くみられました。

質問⑤今後のことで考えていること、悩んでいることはなんですか。



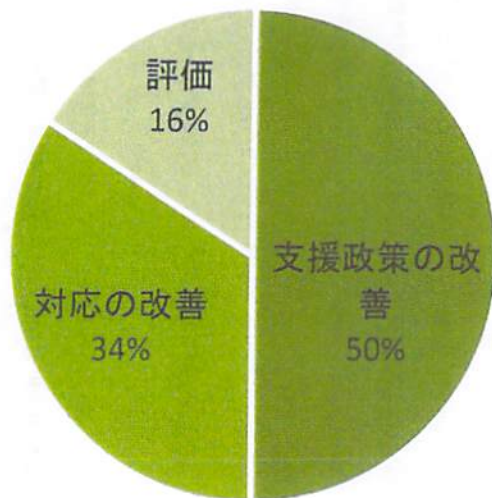
生活への不安や悩みがもっとも多く72%ありました。中でも、お金に関する経済的負担についての発言が多く述べられています。お金に続いて、健康への不安、家の修理リフォーム、老後の生活、元の生活に戻れるかどうかという声が目立ちます。次に常総市の将来についての不安を述べた発言が多くみられました。街の中でどこに住めばいいかわからないという声も散見されました。

質問⑥まちやくらしの再生、復興で必要なことはなんだと思いますか？



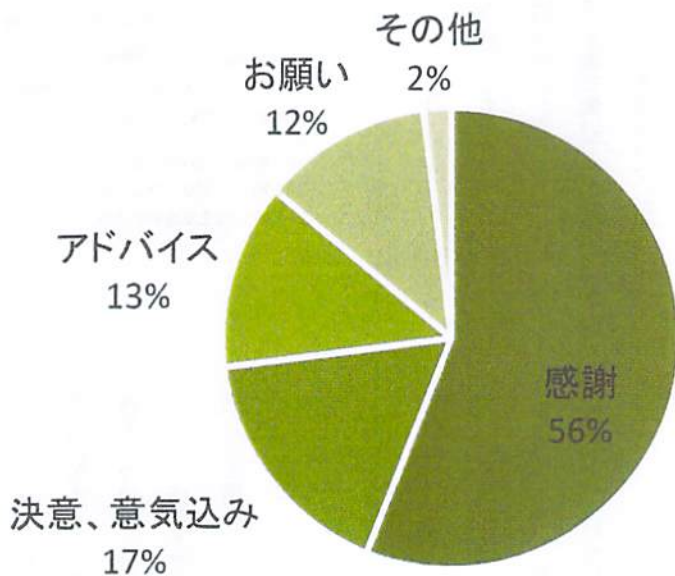
人の助け合いやつながりや、人口増加など、人に関することへの発言がもっとも多くみられました。同じように街の将来像や、現在街がかかえている課題への対処が多く、両方合わせて70%以上の人が言及していました。その他の中にも特に国や県や市の支援がまだ必要という声や、長期的な支援を求める声も目立ちました。

質問⑦行政に望むことはなんですか？



もっとも多かったのは支援政策についての改善要望でした。中でも経済的支援についての話題が多くありました。2番目には次におきたときも踏まえた予防も含めて対応の改善を求めており、3番目には要望よりもよい点、反省点のみをあげる方もみられました。支援政策については財政支援や制度見直しの声、情報伝達の見直しの要望があがっています。

質問⑧市外の人たちへのメッセージをお願いします。



支援に対する感謝が最も多く半分以上の方が述べています。もっとも多かったのはボランティアへの感謝です。続いて支援物資や義援金への感謝の声がありました。感謝の次に多かったのは決意や意気込みも見られました。頑張るという声が多数みられ、市外の方の支援を受けて力づいたということが読み取れます。さらに被災した身からのアドバイスが続きます。防災意識を市外の人たちに高めてほしいという声が多くみられます。その次にお願いごとがあがっています。常総市のことを忘れないでほしいや、訪ねてきてほしいとの声が見られました。

# 鬼怒川水害支援からわかったこと

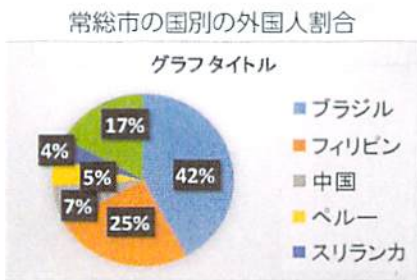
## コモンズが関わってきた災害支援

私が妻の美家のある常総市水海道に移り住んだのは18年前、長男が生まれた頃です。その頃、水戸にある経済団体を退職して仲間と茨城NPOセンター・コモンズを立ち上げ、水海道から水戸へ通う日々が始まりました。コモンズというNPOは、誰かのために活動をしている人が無償のボランティアの限界を超えて活動したい、つまり資金を得て仕事として活動したいという時に、NPO法人をどう作り事業として行えばいいかについて相談に応じ

たり、助成金申請や組織運営の研修などを行うNPO支援のNPOです。

これまで多くのNPO立ち上げに関わり、そこで知り合った多くの人が常総支援に関わってくれました。また、コモンズ自身も、引きこもりがちな青年の就労支援のレストランを作ったり、フードバンクを作ったり、生活に困っている方の電話相談をしたり、緊急時には経済団体、労働団体、生協などと支援プロジェクトを立ち上げその事務局を担ってきました。

東日本大震災の時は北茨城市やいわ



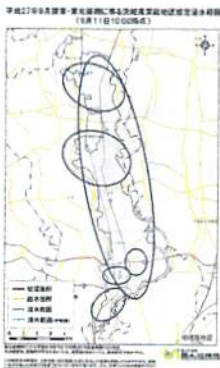
## コモンズが災害支援に関わった経緯

- ・東日本大震災 ホープ常総プロジェクト (北茨城市やいわき市への人、物支援)
- ・原発被災者支援 ふうあいネットの設立運営
- ・浪江町復興支援員の活動拠点を運営
- ・2009年より常総で外国人就労就学支援
- ・2013年より生活困窮者支援

き市に物資や人を送り、福島から茨城に避難している約4千名の方に情報を届ける活動をしてきました。8年前に起きたリーマンショックという経済危機では、工場で働いていた沢山の日系ブラジルの方が失業し、子どもがブラジル学校に行けなくなるといふ状況がおきました。常総市は人口の5%がこうした外国の方で、私の住む森下町にも沢山のブラジルの方が住んでいます。そこで国や県の仕事を受け日本語教室、母語での相談、通訳派遣、ヘルパー講座、子どもの就学相談や放課後の補習教室などを立ち上げ、2013年からは寄付や助成金を得て子どもの学習支援を継続してきました。

## 鬼怒川水害支援

2015年9月10日、鬼怒川上流で豪雨が続き水害の危機が迫りました。自宅から徒歩5分の鬼怒川の堤防を見に行き、今回は溢れるかもしれないと思うほど増水していました。自分がまずしたことは、水が来た時に備えて土嚢袋とブルーシートを買うこと、1階にある大事なアルバムなどを2階にあげることでした。次に避難所の確認。近くの高校が避難所と思っていたら、そこは川に近いたためか水害時は避難所にならないとわかり、別の少し離れた



不意な浸水では逃げることも  
助けることも困難

水害対応の避難所が近くになかった あっても備えが不十分  
あそこに避難するなら2階がいいと家に留まろうと考えた  
結局、ヘリやボートでの脱出(自分の家族で半一杯)  
SOSを出しにくい人が取り残される危険性

避難先がバラバラ→避難所での自治会作れず

高齢者、障害者、子連れやペット連れの行き場がなく 孤立  
避難所に行けないと、風呂も食料も得られない

受け入れ態勢のある避難先を近くに作って置いて早めに避難

高校へ行ききました。隣に住む妻の両親を連れて行くべきか考えましたが何もないところよりは自宅の方がいいかと自宅2階に避難することにしました。近くにあるコモンズ常総事務所に行き、本を棚の上にあげる作業をしていたら、近くの道路の排水溝から水があふれ出しました。午後13時に約10キロ北で鬼怒川堤防が決壊しましたが、その水ではなく、水海道の市街地に近い新八軒堀川という水路が増水し地下を伝わって市街地に急に浸水したので。道路が膝下まで冠水すると車を動かすのが困難になります。自宅もそうですが周辺の多くの人が1台から多い

水害直後の状況



人は4台も車が廃車扱いになりました。そして夜には停電、車で逃げようとして行き場をなくし我が家に転がり込んだ人と浸水を防ぐために玄関や窓に目張りをし、不安な夜を過ごしました。11日は朝から上空に無数のヘリが飛び、家に留まっていた人の救助が始まりました。我が家は水位がギリギリ床下で止まり浸水を免れましたが隣の妻の実家は床上浸水でした。家族は川西の親戚のところへ避難。自分は家が使えて太陽光発電で昼間だけ非常電源が使えたのでたので自宅に留まって被災地の中から状況をメールで全国の間際に伝える活動を始めました。3日目

現地で最初に行ったこと

電源と通信環境の確保  
震災ネットやNPO支援センターへの状況報告  
徒歩や自転車での被災地の撮影と報告  
被災した拠点の再建に向けた応援要請  
近所の住民への物資提供

に水が引き始めたら、人のいなくなった街を自転車でもわり写真を撮って歩きました。事務所に入ったら1m近い浸水で何もかも泥まみれでした。即時的対応からJUNTIOSたちあげ13日には、すでに社会福祉協議会が災害ボランティアセンターの立ち上げに動き出していました。14日には、ボランティアがコモンズ事務所に来てくれて使えなくなつたものを処分したり机を水で洗ってくれました。そして震災がつなぐ全国ネットワークと日本NPOセンターの人が支援に入ってくれました、そこで、被災地の地元NP



○として何ができるか考えました。被災地の状況や被災した人が何に困っているかを調べて全国に発信し、市外からの支援のコーディネートをする。被災している市民へ情報支援をすることを考えました。17日には最初の情報紙ができ、市役所、避難所、再開した店舗などに届けました。また日本財団の助成で購入した高圧洗浄機や掃除道具、レンタルした軽トラなどを無料で住民に貸し出すことを始めました。1階の汚れた家具などを外に出すのは大変な作業です。市外から来てく

被災者が困ったこと

- 災害ゴミをどう出すか
- 災害ゴミをどこに、どう運ぶか
- 食料の確保、水の確保、トイレの問題
- 寝るところの確保
- 車のレッカーによる移動と廃車手続き
- 消毒はどのようにするか
- 新聞も来ない中、どう情報を得るか

れたボランティアは泥出しや畳上げなどで本当に活躍してくれました。けれども、生活再建では沢山の課題に直面します。罹災証明を申請し被害の判定を受け、応急住宅修理を申し込んだり、修理業者を探したり、車の廃車手続きをしたり、どれも初めてすることです。すぐに自宅に帰れた人は2階に住めたとしても風呂や台所は使えず、次々に出るゴミの処理や片付けに追われま。家に住めない避難所に長期滞在した人、特に車がない人は各種手続きも家の片付けも遅れます。こうした状況で、これだけは知っておいた方がいいという情報を情報紙に掲載し、それを最初は毎日、日本語とポルトガル語

どちらで暮らすか



で発行しました。これからどうしたらいいのか、手続きはどうしたらいいのか、自分も知りたいことを調べては記事にして掲載しました。外国の子どもの支援をしていてブラジル人の知人や通訳が出来るスタッフもいたので翻訳体制ができました。今回の支援プロジェクトの名称を考えた時、JUNTOというポルトガル語を思い出しました。一緒に、という意味です。言葉の壁でこれまで同じ街に暮らしていても関わりが薄かったのですが、復興に向けて共に活動して

在宅にいるメリットとデメリット

- |  |   |
|--|---|
| <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 気を使わなくて済む</li> <li>• 不潔だが食べ物を選べる</li> <li>• 自宅の修繕を進めやすい</li> <li>• 空き室への不安が軽減</li> <li>• 出費はかさむが自立しやすい</li> <li>• 知人・親族の支援が得やすい</li> <li>• 行政手続きも進めやすい</li> </ul> | <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 風呂に入るのが大変</li> <li>• 手作りの料理が食べられない</li> <li>• 草さ、匂いなど環境が悪い</li> <li>• 炊き出しや支援物資が得にくい</li> <li>• 悪寒を感じる手が少ない</li> <li>• 片付けに追われ楽しみがない</li> </ul> |
|--|---|

心身の体調を崩しても気づいてもらいにくい

避難所にいるメリットとデメリット

- |  |  |
|--|--|
| <p>• メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 風呂と食事がある</li> <li>• お金を使わなくて済む</li> <li>• 炊き出しやイベントが多い</li> <li>• 支援物資を得やすい</li> <li>• ボランティアとつながりやすい</li> <li>• 話し相手がいる</li> <li>• 新聞が置いてある</li> </ul> | <p>• デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 雨りに気を使う</li> <li>• プライバシーが守れない</li> <li>• ベットが埋れてこられない</li> <li>• 一時帰宅や買い物が不便</li> <li>• 自宅の修繕が遅れがち</li> <li>• 通学、通勤に不便</li> <li>• いくつかの施設・統合されるか不安</li> </ul> |
|--|--|
- ↓
- 累計が厳しい人が残りやすい
- ↓
- 高齢者が残りやすい

被災者の今

今回、常総市の鬼怒川の東側全域が復興のエネルギーが生み出せると思っただけです。いけば関係も深められるし、そこから

浸水し床上浸水だけでも5千世帯に及びました。ただ全壊世帯が52戸だったためか、仮設住宅が作られませんでした。当初は学校など沢山あった避難所が統合されるたびに、家から遠い避難所に行くのと家に片付けに帰れない、通勤通学ができないと避難所の人数は減りました。避難所から出て家も家の修復が終わるまでの数ヶ月間は、食事を作ったり風呂に入るのも困難な生活です。行政は最初は避難所の人数が減ることに注目していましたが、私たちは在宅避難している人の状況を調べて市に伝え、街中での炊き出しをしてきました。毎晩、常総市水害対応NPO連絡会議を開き、避難所の状況、片付けボランティアが直面する災害ゴミの処理のこと、農家のこと、障害者施設の情報などについて情報共有をしました。避難所の食事がおにぎりのみという状況が1月も続いたり、避難所統合の度に様々な問題が発生しました。連絡会議として毎月状況を改善するため



### 水害で直面する10の課題

1. 避難 どこに、いつ、逃げればいいのかわからない
2. 大量の災害ゴミをどこに持って行くか
3. 避難所の受け入れ体勢が弱いと様々な問題が発生する
4. 仮設住宅がないと、長期間不便な在宅避難を余儀なくされる
5. 公的制度や義援金配分では改修費や家財購入費を賄えない
6. 家の解体、空家化、人口流出、人のつながりが壊れる
7. 商店など個人事業が廃業に追い込まれアパート改修も進まず
8. 公園や公民館など公共施設が使えず、人が集まって話せない
9. 孤独、引きこもり、生きがい喪失を放置すると心の問題が悪化
10. 辛さが理解されない、忘れられた感覚が心を重くする

の提案をまとめた市長に届けました。

水害から10ヶ月が過ぎ、あちこちにあったゴミの山はなくなり、家も外見上は元に戻ったように見えます。水害対応の保険に入っていた人や若い世代は家の修復が進みました。けれど高齢世帯や高い保険には入れなかった世帯は、直す資金がなく、1階の床のない家に住んでいる人もいます。最大2年間家賃がかからないつくばの公務員住宅に移った世帯向けに毎月茶話会を開いています。

常総市に戻りたいが、解体して更地になった土地に再度家を建てるべき

### 避難所にいる住民に対して 避難所から出た後に孤立するのを防ぐ

- ・避難所にいる時に支援物資の配達や引越し支援を申し出て、自宅や引越先を教えてください
- ・支援物資（水、毛布、食料、自転車、調味料、衣類など）を届けながら個別の家の状況を確認し、必要な支援につなげる
- ・近くでサロンを開いたり、ご近所をつないで孤立を防ぐ
- ・移転先で新たなコミュニティが作れるよう支援

か、そもそもまた水害に遭うかもしれない土地に戻るべきか悩んでいる人がいます。1メートルを超える浸水や、家に戻った時にひどい臭いを経験した人は、ここには住めないと街を去る人も少なくありません。その結果、浸水被害が長く続いたところでは、家の解体が続き空き地が増えています。個人が所有するアパートや貸家の多くは、畳上げをただで工事をしていない物件が多く、空家が増えています。街を出ざるをえない人、戻りたくても戻れない人、家に住めるけれど修復が十分できない人、こうした見えない被災

者が沢山います。床下浸水だった人も家が直せた人も車や多くの物を失っていますし、次の災害やカビ、シロアリが増えるのでは心配する人もいます。

**想いの発行**

先に書いたように、多くの人が被害の差はあるにせよ、辛い経験をし、喪失感や不安感を持っています。それを話せる場が少ない中で日常に追われています。職場などで「もう片付いたんでしょ」と軽く言われると、「わかってもらえていない」と感じ、常総市の被害を気にもかけない人と話すと「忘

### 「ぬくもりのバトン」プロジェクト

- ・最初は、寒い冬を乗り越えるため「電気毛布を届けたかった
- ・モノを配るだけ、もらうだけでなく、参加の要素を考えた
- ・当事者だから書ける体験や想いを書いてもらうことにした
- ・被災した人のメッセージを冊子にして紹介することで、被災者を励まし、被災していない人にも状況を理解してもらう
- ・手紙やモノのやり取りを通じて、関係性を作る
- ・個人の体験や提言を今後の防災、まちづくりを生かす

れられている」と思います。市内でも温度差が広がっています。その差を少しでも埋めたい、そう思っている「ぬくもりのバトン」プロジェクトを年末に立ち上げました。エアコンが使えない寒い家も多だろうと寄付で電気毛布を購入し、避難所やサロン会場で希望者を募りました。その毛布を届けながら、それぞれが体験したことや今の思いを手紙に書いてくださいとお願ひし、その結果110世帯の声が集まりました。これを冊子にして市役所や協力いただいた方に配りました。なんども避難所を転々とした方の経験や顔で笑っ

### 在宅に戻った人を支えるサロン

- ・食事を配るだけだと、対話の場を作りにくい
- ・「配給」「施し」のイメージがつくと来る人が偏る
- ・学習会にしたり、お父さん向けにするなど内容を工夫
- ・サロンのチラシを配る活動は、ボランティアが家の状況を感じ、在宅の人に相談先を知ってもらえるチャンス
- ・サロンをきっかけに、住民同士が話すことで楽になったり一緒に前向きなことをする（散歩、学習、楽しみ作り）
- ・サロンに来られない人のフォローを、どう、誰がするか

「心で泣く心境です」と言った胸のうちを覗いた方から、「こんなに大変だったのか」「辛い思いをしたのは私たちだけではない」などの感想が寄せられています。少しでも温度差を埋め、ともに復興していこうという思いが広がれば、と思っています。

活動でわかったこと

災害時は、まず身の安全のために避難したり、逃げ遅れたり閉じ込められた人を救出する段階、次にライフラインが止まるなどして家にいられない人の居場所と食料やトイレなどをどうするか、その次に片付けに必要な人と機

**水害による被害状況 外国人住民**

- 情報が入らない  
避難指示、避難所の場所・状況、病院や鉄道、電気・水の復旧  
→被災者は日本語のみ
- 難しい制度がわかりにくく誤解されやすい  
被災証明書、保険金、遺失手続きの方法etc
- 住居の問題  
マイホーム所有時：火災保険等未加入の場合あり  
賃貸利用時：賃貸は応急処置の対象外  
→1階が工事中の物件が多く市外への流出も
- 日本人への過慮・不安  
避難所や炊き出しに外国人が行っていいの？

**外国人支援の課題 情報に関して**

- 行政放送・文書の多言語化
- 情報の届け方（各国のキーパーソンの把握）  
ブラジル人以外は把握できず  
→直接から書類や電話ごとにキーパーソンとの繋がりを
- 避難所での翻訳書類の活用方法  
避難所に届けるだけでは活用されない  
→避難所の運営関係者に利用方法を説明（可能なら災害前）  
→各避難所で外国語住民の中で翻訳ボランティアと連携できるキーパーソンをあらかじめ把握

材何よりコミュニティの置き場をどうするか、という課題が大きなテーマになりました。数ヶ月してそれらがひと段落すると地元社会福祉協議会に置かれる災害ボランティアセンターが開鎖され、外部から入ったボランティア団体は激減します。けれど、各世帯の生活再建、コミュニティの再建という点では、その後の方が重要になります。

被災金額の被災者支援では格差が広がる  
常総市の災害は、全壊世帯や亡くなった方が比較的少なかったからか、マスコミの報道が長くは続きません

した。それが義援金の金額に影響しました。過去の災害によつては世帯あたり一千万円を超える義援金が配分された例もありますが、常総市の場合、被災世帯が多すぎたため一世帯の配分は25〜50万円程度にとどまりました。この差は決定的です。被災者生活再建支援制度も半壊世帯には支援がなく、とにかく生活再建のための資金が足りないというのが最大の悩みことです。現状の制度では、一部の人しか生活の再建ができないのです。

災害は、もともとその地域にある潜在的な課題を顕在化させます。水害対応

**たすけあいセンター「JUNTOS」が行った外国人支援 独自で行った活動**

- 情報誌の作成（9月～現在）  
言語：5言語（日本語、ポルトガル語、スペイン語、韓国、中国語）  
内容：自宅の状況や被災者向け情報を掲載し加筆で発行  
制作体制：①スタッフ、避難所で出会ったブラジル人、②翻訳ボランティア（つくば国際交流協会と協力）
- 多言語ラジオの放送（10～11月）  
言語：3言語（ポルトガル語、スペイン語、韓国）  
内容：避難所や被災者各言語10分程度にまとめた放送  
制作体制：外国人翻訳ボランティア  
放送手段：衛星放送FM  
配信：1日一回放送（YouTubeにもアップロード）

**外国人支援の課題**

- 外国人住民自身の心構え  
・「いつか母国へ帰るから」という気持ちが必要なきを  
していい（健康、住居の確保etc）  
→手続きの大切さを伝える  
→行政情報の多言語化などでわかりやすく
- 外国人の勤務先との連携  
・勤務先との連携不足、休日出勤により外国人向けの  
説明会等への出席が難しい  
・出前説明会等実施したが協力は得られず  
・配属した関係者などの配布については一歩で協力を得た

応の保険に入っていたかどうかで、家を出ます。行政文書を理解して手続きができる人がいるかどうか、でも差が出ます。日本語が読み書きできなかったり、高齢者だけの世帯や、障害者の世帯の場合、大工との契約も行政手続きも大変です。外国人ように通訳つき説明会を開いても、会社が休ませてくれなければ参加も叶いません。自己責任主義では、家や街を捨てざるをえない人が出ます。それは地域の衰退という状況をもたらします。日頃から共に活動し、いざという時に相談しあえるように繋がっておくことが何より重

要です。

自治体への提言

今回、常総市は初日の夕方には出来たばかりの庁舎が浸水被害を受けて、電話が繋がらなくなったり、広報車も大半が水没するなどして、情報を集めることも発信することも十分に出来ませんでした。多くの職員が自宅が被災

している中で、交代で避難所の宿直をするなど大変だったでしょう。ただ、情報の受発信に課題があったことは反省すべきことだと思います。被災者はホームページを見たり、そこで情報を検索している暇はありません。回覧板

被災地の中間支援ができること

- ・外部支援団体、地元団体の情報共有会議
- ・災害に関して市民が学ぶ機会作り
- ・検討会を開き復興計画に住民の声を反映
- ・被災者の生活課題を調べ、関係機関に改善提案を行う（支援金、食事、移動等）
- ・行政との定期協議で被災者の声を代弁
- ・行政と住民への長期・多面的な働きかけ

定期的な県や市との協議

避難所、公営住宅、義援金や見舞金、災害ゴミ、農地の整備、在宅避難者、見守り体制、移動支援、情報支援、など復旧に関する最新情報を共有する場として機能。

公営住宅に移った住民へのサロンの開催告知など、情報提供面での連携ができ、行政による住宅提供と民によるコミュニティづくりが連携できている

も回せない中、防災無線以外に情報をこまめに発信し、住民が直面している

悩みを直に受け止め、柔軟に対応する

姿勢がもつとあつたほうがよかつたと思

います。国や外部組織への支援要請

も十分ではなかつたと思います。現状

を正確に把握し、復旧・復興のロード

マップを作り住民に示すには、庁内を

横断した統括組織が必要になります。

それを早く立ち上げるには、職員が事

前に他の被災地に入つて経験しておく

か、経験のある自治体職員の応援を迎

え入れることが重要でしょう。

その意味で、住民に日々接している

NPO関係者が課題を整理し、その情

報を市の災害対策本部の場に出せたこ

とはよかつたと思います。今回、常総

には、阪神大震災や東日本大震災を経

験し、災害救助法など制度や避難所の

運営にも詳しいNPO関係者が継続し

て関わってくれました。その助言やア

イディアはかなり役立ったので、NPO

連絡会議のメンバーが災害対策本部

の会議に出席できるようにすること

は、とても重要だと思ひます。

今後の課題と展望

市の復興計画は短期間で作られまし

たが、市民側がワークショップでまと

今後検討・実践したいこと

- 復興計画に盛り込まれた事業の具体化
- 空家を活用した高齢者などの共同住宅作り
- 若い世代の活動拠点を作り活動を支援
- 被災地ワークキャンプやツアーの受け入れ
- 地元の外国の生徒が活躍できる仕事作り
- 避難所計画見直し、地図作りと防災訓練
- 長期的な復興支援を支える官民の体制作り

めた要望を反映させることはできまし

た。これを官民で具体化させることや

避難所など防災計画を見直すこと、自

主防災の体制作りが急務です。当会は、

家を失った高齢者などが街に戻れるよ

う空家を福祉長屋に改装するプロジェ

クトを進めたり、街の被災を記録し防

災を学べる場として人を受け入れた

り、家の修復を若者や就職困難者の仕

事にする活動も始めています。被災を

風化させず地域づくりに生かしていけ

ば、以前よりも住みやすい街にでき

ると信じて、息長く活動していきたいと

思ひます。

復興計画への市民の参画を支援



# たすけあいセンター「JUNTOS」の活動について

## 情報支援

被災者が必要とする情報を伝えるため、9月17日から最初は毎日 JUNTOS 通信を発行し、公共施設や、避難所、スーパーなどに掲示してきました。ポルトガル語のほか、つくば市国際交流協会の協力を得て、英語、スペイン語、中国語の翻訳版も作成し、2016年7月までに22号発行しました。

さらに、市の災害FMの情報が日本語のみだったので、ポルトガル語、スペイン語、英語で被災した

人にとって重要な情報をつたえる番組を4回作成して同FMで配信したりWEBで配信しました。

1月から毎週月曜日20時から、常総の復興に関する動きや活躍している人のインタビューを収録した番組をコミュニティFM ラヂオつくばから配信しているほか、下記の JUNTOS のホームページでも配信しています。2016年8月末までに32回放送しています。(www.juntos-joso.org)



避難所におかれた多言語版



ボランティアが薬局に通信を配達



避難所での会い、翻訳してくれたブラジルの方



インタビューするフリーアナウンサーの有働さん



日本語版の1号



ポルトガル語版17号



各言語の JUNTOS 通信と、多言語の「ラジオ JUNTOS」が視聴できます。



1月以降のラジオ JUNTOS はこのサイトで視聴できます。

住宅の改修に関する相談支援と空き家の活用

災害当初は、高圧洗浄機や軽トラの貸し出し、片付けボランティアの派遣を連日行ってきました。1月から3月まで「地域に役立ててください」と申し出のあった空き家の改修を実験的に行い JUNTOS ハウスが完成。子どもの学習支援拠点として使用す

るほか、地域にも活動の拠点として開放しています。4月以降は、家主だけでは手に負えない製麺所跡地や、周辺にある空き家を調べ、連携しているボランティアチームと協力してコツコツ改修を進めています。



空き家の提供の申し出をいただく



床上 80 cm の浸水から 3 ヶ月



床上げて土の乾燥から



最初は壁紙を貼る工事の筈が



壁の裏に大量のカビを確認



全ての壁をとり、消毒



床貼りには子供達が協力



ペンキ塗りでは中高生が活躍



大工ボラが家具を工夫



JUNTOS カラーで3月に完成



みんな、ありがとう



みんなの拠点が誕生



移動支援

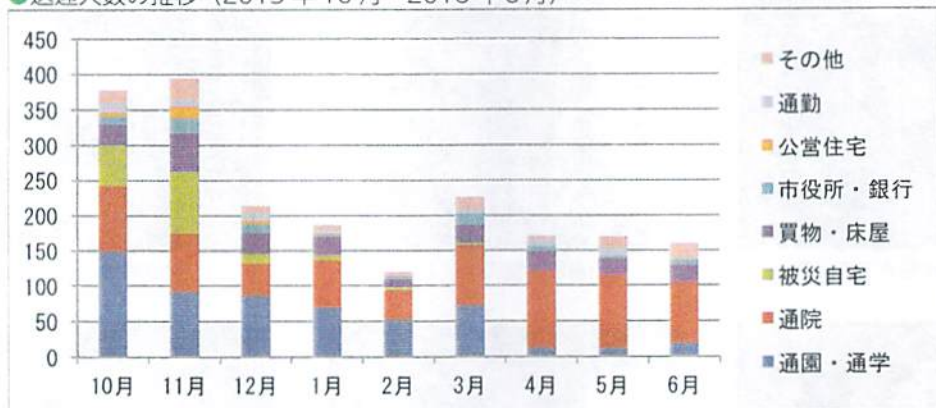
JUNTOS 移動支援は2015年10月7日にスタートしました。水害直後は避難所に滞在していた避難者の通院、通学、自宅の片づけ・掃除、行政手続き、買い物、市から提供された公営住宅訪問のための送迎のサポートを行って来ました。2015年12月末までは水害の被災者に向けて活動を行って来ました。2016年1月からは被災者に限らず、常総地域の移動困難で常総市の乗り合いタクシーを利用しづらい方を支援することとしました。高齢者や障害を抱える方々の市内外への通院、児童の通学、などこ

れまでに計 2615 名（2016年6月時点）をボランティアで送迎してきました。

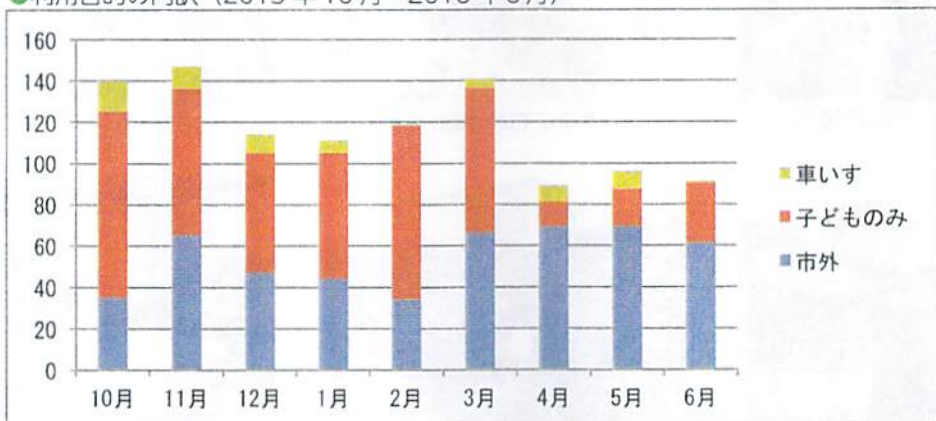
JUNTOS 移動支援の立ち上げには、石巻や大阪など全国各地より多くのボランティアが集まりました。水害から時間が経つにつれ、他県からのボランティアが少しずつ減る一方で、運転講習会などを経て、地元の方々が積極的にボランティアに関わってくれるようになりました。これまでに JUNTOS 移動支援のボランティア登録者は 75 名に上り、地域の助け合いの心で活動を運営しています。

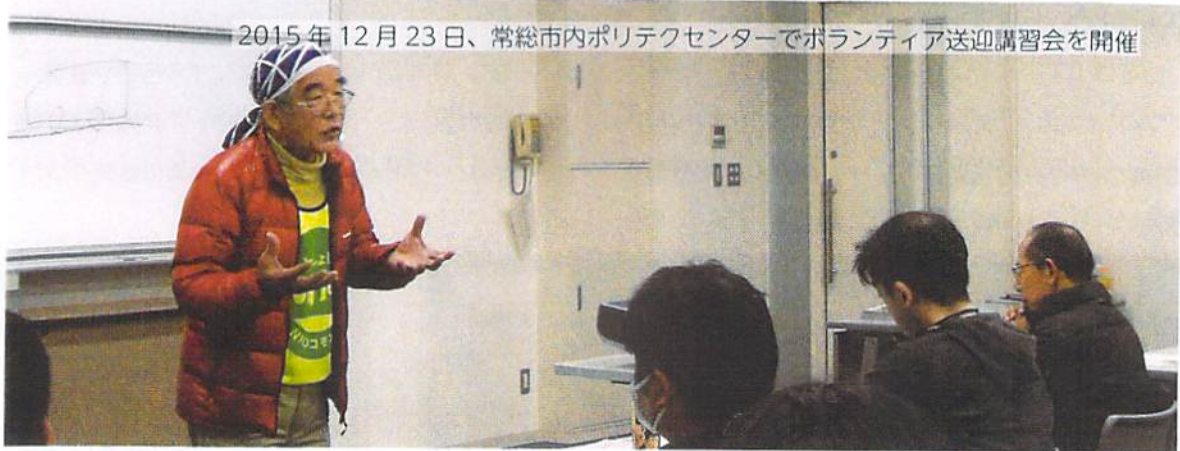


●送迎人数の推移（2015年10月～2016年6月）



●利用目的の内訳（2015年10月～2016年6月）





2015年12月23日、常総市内ポリテクセンターでボランティア送迎講習会を開催

車いすを車に固定する練習



乗降のサポート



カーシェアを利用した  
 ブラジルの方



カーシェアリング協会の方(中央)と



ボランティアによる送迎の様子

移動支援で使用している車は、石巻にある日本カーシェアリング協会からお借りしています。常総でもカーシェアを行い、カーシェアも4件の利用がありました。また、移動支援活動には、難民を助ける会、中央共同募金会の助成をいただきました。



石巻からきた送迎用の車



物資提供と見守り

当初は災害用トイレ、ラジオ、ポリバケツ、タオル、マスク、ウエットティッシュ、食材などを周辺住民に届けながら在宅避難者のニーズを聞き、避難所が閉鎖された11月頃は、日用品、自転車、ガスレンジ、

ストーブ、電気毛布などを届けながら自宅や避難先の情報を得ました。(約130世帯)1月からは身寄りがない方や住宅が直っていない世帯の訪問を継続中。



災害直後に知人に配ったもの



在宅避難者訪問時に届けたもの



サロンのお土産



サロンのお土産 (一部は有償に)



避難所を退所する方へのストーブ



学校に届けた自転車

定期的なサロンの開催と外出

つくばに避難している方のサロンを12月から毎月、つくばのボランティアと協力して開催中。



3月につくば市松見公園に花見へ



つくば市民大学でのサロンでは足湯も



交流活動

常総市の人々を応援したいという団体（NGO、ボランティアグループ、ラーメン店など）の申し出を受け、避難所に比べて炊き出しの機会が少なかった住宅地（森下、橋本、相野谷地区）で、在宅避難者向けの炊き出しを週末に多く行いました。一時避難でバラバラになった住民が再会できる場を作るのも目的でした。

1月からは JUNTOS の拠点で、孤立防止のためのサロンを生協などと開催してきました。専門家による相談会、子どものサッカー大会やプレーパーク、歌手のコンサートなどもコーディネートしてきました。4月から JUNTOS 農園も開き、ヨガ教室なども行っています。



10月10日北北海道駅前でのシュラスコ



11月21日ブラジルの店でサンドイッチ



12月3日キッチンカーによるラーメン



10月24日建築事業者の相談会



12月20日弁護士による相談会



1月9日雑損控除の説明会



小学校でプレーパークが実現



プレーカーが東北から集結



思い切り自由に遊び発散



5月5日 クラブ JUNTOS のゲーム



JUNTOS 農園



農園は人が出会う場



### 全国の被災地・支援団体との交流と提言活動

住民主体の地域復興を進めるため月に1回程度、復興寺子屋を開催し、神戸など他の被災地からゲストを招いたり、ワークショップを行い、被災当事者が何ができるか、学ぶ場を作ってきました。



10月6日復興学会から救助法の説明



11月29日災害時のラジオの話



12月14日広島県の自治会と交流



11月3日活動説明会  
3回シリーズで常総でできる活動を紹介



1月9日支援団体交流会で  
連携して何をするか討議



4月24日市民による  
復興計画づくりを学ぶ寺子屋を開催

### JUNTOSとしての調査提言

JUNTOSの調査提言としては、10月初旬に、森下地区で世帯訪問をし、在宅避難者の食事、入浴などに関する生活実態を調査し、市に支援を求めました。それは後にサロン活動への市の支援につながりました。3月まで月2～4回、行政、社協、NPOでの定例会議が継続して行われました。1月、2月には、生活支援相談員や避難世帯の通学送迎の課題に関して市に提言しました。12月～2月には、市の復興計画策定に関わり、検討会で市民から出された意見が復興計画に反映されるように努めた結果、提案の7割は復興計画に反映されました。

コモنزの呼びかけで発足した常総市水害対応NPO連絡会議では毎晩情報交換を重ね、10月と11月に生活再建に関する課題と、それへの対応策の案をまとめて市に提案しました。



JUNTOSやNPO連絡会議が常総市に提案した内容は下記でみることができます。

### 常総市水害対応NPO連絡会議

9月15日から全国から常総に集まった支援団体関係者の横の連携を図る目的で、情報交換の場を毎晩開催しました。そこには計70団体ほどが参加しました。避難所や在宅避難者、農家、災害ゴミ、移動支援、炊き出しやイベント、行政や支援制度の動向など各団体が見聞きした情報を共有し、連携して大規模なゴミの回収、避難所の環境改善など、市への提案を行いました。



10月8日夜の連絡会議の様子





9月24日の連絡会議の記録

9/24(木) NPO連絡会議 at JUNTOS

参加団体 8団体  
 - Labos 横田  
 - FIC スズキ 木村  
 - 聖徳大学 橋本  
 - 石川市 石川  
 - 石川市 石川  
 - 石川市 石川  
 - 石川市 石川

8団体の活動報告  
 - 日相団の活動  
 - 聖徳大学の活動  
 - 石川市の活動  
 - 石川市の活動  
 - 石川市の活動  
 - 石川市の活動  
 - 石川市の活動

今後の活動計画  
 - 10月の活動  
 - 11月の活動  
 - 12月の活動

10月13日の連絡会議の記録

市VC ワラ回収プロジェクトへの協力が大量に必要に要請

3連休: 9/28-11/29 約330人  
 - 9/28 9:00  
 - 9/29 9:00

租税の増収交付終了への不安が大きい  
 - 租税の増収交付終了への不安が大きい

活動の目的: 地域再調査 11月中旬に復興フェスに移行かと  
 - 復興フェス: 工事業者等に対応したい(伊)

土曜祭りの開催: ワラはいつか回収かと

地域支援 市社協、生活福祉基金銀行=県社協と協力、地域のNPOと連携  
 - 市社協: 要支援者について情報と連携予定  
 - NPO側: とも情報や計画のすり合わせ

近況報告 現場見学 → 避難所以外の地域で実施の調整  
 - 現場見学: 避難所以外の地域で実施の調整

避難所 避難所の状況  
 - 避難所の状況

1月9日の連絡会議の記録

<p><b>避難所</b></p> <p>二次避難所              1/2, 70人 → 1/9, 現在48</p> <p>野村屋 13人              スカイ(H) 12人              オー(H) 8人              かま仙 15人</p> <p>1/2, 1/4に保健師、市社協巡回              その他、1/2に保健師巡回              保健師巡回の体制確認</p> <p>20日(土)保健師巡回              本人の希望確認し移動し              本館はシングル70歳以上</p> <p>今後の通所、在宅管理の進捗を              行政側にて確認し、必要に応じて              個別対応予定</p> <p>カビ問題) 市社協に調査依頼              調査結果を報告し、対応を              確認</p> <p>スチールバス              アスベスト              カビ対策全般の情報はHPで案内</p>	<p><b>行政</b></p> <p>委員会見直し申請書              市社協              6市431件              県302件</p> <p>公営住宅への巡回              106世帯中97世帯巡回              1%巡回は管理費削減              2-3軒 物理的利用の様子              巡回時各種巡回資料の              配布              → 巡回資料の巡回は巡回              巡回時には巡回資料の配布</p> <p>巡回時巡回資料の              巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の</p>	<p><b>市VC</b></p> <p>年末11月17日団体              年明け10月6日              問い合わせあり</p> <p>野村屋巡回              巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の</p> <p>巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の</p>	<p><b>市VC</b></p> <p>巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の</p> <p>巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の</p>	<p><b>JUNTOS</b></p> <p>巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の</p> <p>巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の</p>	<p><b>1/4 AMの市社協</b></p> <p>巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の</p> <p>巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の              巡回時には巡回資料の</p>
--	--	---	---	--	--

地域の復興に向けて住民が話す場づくり

JUNTOSは被災地の地元のNPOとして長期的に地域の復興に取り組んでいます。市の災害復興計画に様々な立場の住民の声を反映させたり、地区ご

との復興を話し合うワークショップを開いたり、次の災害に備える防災マップ作りなどを、地域の団体や自治会の皆さん、学生の皆さんと進めています。



1月24日復興計画検討会を開催



2月14日森下町の復興を考える会



3月31日新井木でまち歩き



農家、子育て世帯など属性ごとに悩みや復興計画への提案を討議



地区の状況を地図で確認した後、どんな街にしたいか話し合った



見聞きしてきたことを地図にまとめ防災マップづくりを体験

常総市復興計画を考える市民の集いの参加者のコメント抜粋

- ここで出た意見は、今後、常総市が復興するために必ず必要なものだと思います。課題は、この意見をいかに計画に反映させるかにつぎると思います。
- たくさんの意見が出ていたのがよかった。さらに具体化できたら良いと思う。各地区で住民さんにも意見をもらえると良いと思う。常総市全体のみでなく、居住している地区単位で課題抽出、解決策を考えてみると、住民さんも考えやすいと思う。
- このような会には初めて参加させていただきました。人前で話すことに不慣れなので発表の際は（個人的に）しどろもどろしてしまい申し訳なかったです。実際この会で話し合いに参加してみても、今まではこうだったらいののと思っても具体的にどう動いていけばいいのかわからなかった。この話し合いで具体化（項目化）でき、アクションプランに持っていくという段取りが見えてきました。ママに
- に対するアンケートを完成させ、座談会（2回目）も近いうちにできたらと思います。今日のよな会に市長や市役所職員などにもっと参加してもらえたらいいんじゃないかと思えます。
- とにかく、障害者の避難に関するアンケート共有会にかかわっていきます。
- チーム常総 発進できることから始めたい。まずはサロン計画をしたい。
- サロン活動についての実践交流。
- 市民の声が市に届き、それに対する市の反応が可視化される仕組みがあるといい。要約だけでもネットに公開されるような、それが市議や県議の意欲（あるいは切迫感）につながれば、市民の声は無視されないだろう。



## 地域復興のための JUNTOS としての重点プロジェクト

**重点目標** 空き家の増大と人口流出、個人事業の廃業を少しでも食い止めることが急務。

使われていない家やアパートを改修、活用して、住まいと、新たな人のつながり（コミュニティ）と仕事を作り出すことを目指します。

常総の特色でもありコモンズが取り組んできた外国人住民に関しては、製造業以外の仕事（バイリンガルを活かせる）を増やし保育、教育、医療などが受けやすくすることで、定住人口や交流人口の増加に結びつけることを目指します。

### 事業内容

#### 1 人の交流から新たな活力を生み出すための拠点づくり

森下・橋本地区で、コミュニティ再建のモデルとなるような活動拠点を空き家を活用して作り、多世代、多文化が交わり、互いに支えあう関係を広げていきます。

次の施設を地域につくっていきます。

**交流スペース** 多世代、多文化で交流サロン、食事会などができるオープンカフェ

**なんでも相談** 住宅に関する悩み、生活に関する悩み、外国人の悩みに対応できる体制とサポートカウンター

**ゲストハウス** 常総を訪れる人が、地域を知り、住民と接し、被災地での復興支援活動にも参加できる宿泊と研修の拠点

#### 2 家を無くしたが常総に住みたい人、見守りが必要な人のためのグループハウスづくり

空き家や空室を活用し、単身高齢者などを対象にして、個人の居室とみんなのリビングがあり、送迎や見守りもあり、安心して過ごせる共同住宅を実現します。

上記のオープンカフェでの食事と空き家・空室を活用した居室、さらに送迎、余暇活動・見守りサービスを有償で提供できるようにします。

#### 3 若者の力を生活環境改善に生かすための就労支援

・長く自宅に引きこもっていた人など、一般就労が困難な若者の就労支援を行います。

空き家やアパートのメンテナンス（掃除、草刈、網戸張り替えなどの便利屋作業や農作業などを経験のあるジョブトレーナーと共に行い、地域に貢献します。

・ブラジルなど外国とつながる常総育ちの若者による、多言語を活かした仕事をつくり出します。お店や公共施設への通訳翻訳派遣サービス、保育士などの資格取得支援など、若者が活躍でき、常総市が誰もが暮らしやすい地域になるようにしていきます。

・空き部屋を活用して地域にゲストハウスを増やし、宿泊型の地域貢献プログラムを運営して、地域の外から常総で復興支援活動に関わって頂けるようにします。

グループハウスに関する検討会

グループハウスとは、阪神淡路大震災の際、兵庫県尼崎市につくられました。仮設住宅から復興公営住宅にバラバラに移ることで高齢者などが孤立することを防ぐために、居室と共同スペース（食堂、風呂など）がありヘルパーも常駐する現代版の長屋で、20年近く運営されています。11月に現地を見て、常総市でもこれが実現できれば孤立を防げるだけで

なく、単独では家をもてない人もまちの中に共同で暮らせると考えました。そして12月、3月、6月とグループハウスを設計した研究者や発足当初からの施設長、さらに愛知県で地域で居場所と仕事をシェアする活動をしているNPOの方を招いて検討会を重ねています。



空き屋の改装、共同住宅や地域内での多様な仕事の作り方などを学んでいます。

愛知県にある「いなかビレッジ」には、カフェ、保育園、シェアハウス、デイサービス、就労支援施設、農園などがあり、様々な人が共に働き暮らしています。



グループハウス尼崎の中村施設長の講演

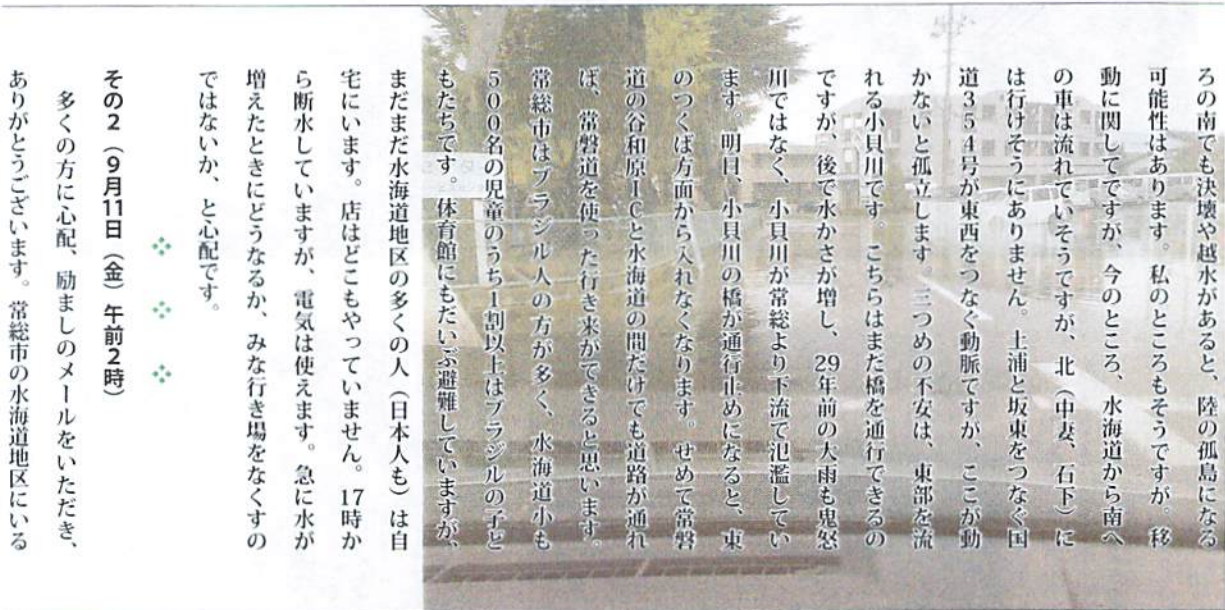


グループハウス尼崎には19の居室と共同のリビングがあり、自由に暮らしています。

その1 (2015年9月10日(木)午後8時)

コモンスの横田です。自宅のある常総市は鬼怒川沿いなので、「いつかこういふことが」と思っていたことが、現実になりました。NHKなどが常総市内に入っていないようなので(車が一部入れなくなっています)、中からの情報を発信します。まず見取り図をつくりました。常総市は北部の旧石下町と南部の水海道市が合併した6万くらいのもので、西部に鬼怒川、東部に小貝川が南北に流れ、その間は田畑が広がっています。川に沿って道路や鉄道もあります。今はいずれも一部しか通れないのではありません。私は北水海道駅の近くの自宅にいます。まだ家のまわりに水は来ていませんが、歩いて1分のコモンスの常総事務所付近の道路は、下水から水が溢れ、膝くらいまで浸水しています。水海道地区の公共施設は高いところになく、水海道小、水海道一高と、その隣の報国寺が避難所ですが、収容人数も少なく、石下地区で自力で逃げられた人は東のつくばの豊里のJAの避難者か、北の方に行ったのだと思います。水海道小の近くの福祉センターに社協があり、その皆さんが、これからボランティア・センター立ち上げに動くと思われます。これから様子を見てきます。

不安な点は、社協や避難所があるところははやや高台ですが鬼怒川には近く、もし今回決壊したとこ



ろの南でも決壊や越水があると、陸の孤島になる可能性はあります。私のところもそうですが、移動に困りますが、今のところ、水海道から南への車は流れていそうですが、北(中妻、石下)には行けそうにありません。上浦と坂東をつなぐ国道354号が東西をつなぐ動脈ですが、ここが動かないと孤立します。三つめの不安は、東部を流れる小貝川です。こちらはまた橋を通行できるのですが、後で水かさが増し、29年前の大雨も鬼怒川ではなく、小貝川が常総より下流で氾濫しています。明日、小貝川の橋が通行止めになると、東のつくば方面から入れなくなります。せめて常磐道の谷和原ICと水海道の間だけでも道路が通れば、常磐道を使った行き来ができると思います。常総市はブラジル人の方が多く、水海道小も500名の児童のうち1割以上はブラジルの子どもたちです。体育館にもたいふ避難していますが、まだまだ水海道地区の多くの人(日本人も)は自宅にいます。店はどこもやっています。17時から断水していますが、電気は使えます。急に水が増えたときにどうなるか、みな行き場をなくすのではないかと心配です。

その2 (9月11日(金)午前2時)

多くの方に心配、励ましのメールをいただき、ありがとうございます。常総市の水海道地区にいる

横田の現状です。その1でお知らせしたように、常総市は南北に長く、西の鬼怒川と東の小貝川に挟まれた平地です。昨日朝に石下の北で、鬼怒川の右岸より水が堤防を越え、午後1時頃に石下と水海道の中間にある三坂というところで、突如堤防が決壊しました。それらの水がまず石下地区の鬼怒川から市街地を経て、294バイパスのあたりまで広がっていると思います。石下の市街地の市役所石下庁舎や福祉センターは1階建てなので、かなり水が入ったと思います。石下庁舎の近くは交流センターがあり、そこに石下周辺の人は多く避難しているようです。ラジオの情報は、濡れたまま来て、電気はあるようですが食料が課題になっているようです。テレビに大きなデパートの屋上が出ていたと思いますが、石下のAPITAというデパートで、その1階が一時水に浸かったようです。私は石下から徐々に南の水海道地区に水が来ると考え、いろいろ買ったたりしていたら、急に家のそばの地区で下水管から水が溢れだし、膝くらいになりました。コモンス常総事務所の周りもその状態です。夕方、家族の避難先の避難所も確認しましたが、水海道地区の避難所は既に混んでおり、妻の父母のことも考え、自宅に留まることにしました。水海道の森下町地区には、そう判断した人が多いと思います。午後8時くらいに避難所や市役所の方に行こうとしたら、急に増水し



引き返しました。鬼怒川からではなく、鬼怒川と小貝川を結ぶ「新八間堀川（しんはちけんぼりがわ）」が溢れたらしく、北ではなく南側から水が迫ってきました。

今、家の周りの道路も膝からももくらひの水がたまっていきます（どちらにも流れていません）。結果として、水海道森下町、橋本町、相野谷町などは中妻、石下と水でつながったと思います。新八間堀川の南側に水海道駅や市役所がありますが、そちらも浸水しているようです。かなりの人が森下地区に取り残されたままになっています。

鬼怒川から東は午後5時から全域で断水。午後10時くらいだったと思いますが、突然停電になりました。信号はついていますが（こういうときはポーターがあると良いと思いました）。個人的には、家の床ギリギリのところまで水が来ているので、2時間くらい浸水対応に迫られました。備えはそちらに役に立ちました。水海道地区は鬼怒川沿いですが、高い場所にある水海道小、水海道一高等など3か所に避難所があります。そのすぐ近くにある福祉センター（社協が入っています）にも、夜になって自衛隊などに救助された方がたくさん入り、100名くらいになって3階建ての各部屋が一杯のことです。社協のある避難所で必要なのは、下着です。相野谷地区（北水海道駅の東側）の人は上記の急な増水に合い、1階で胸くらいまで水に

浸かった人もいます。皆びしょびしょで避難しているの、下着が欲しいそうです。毛布も足りない。水があるそうですが、食料が夕方おにぎりが届けられたほかは何もなく、食に困っているようです。具合が悪い方も少なからずいるので、医療スタッフも必要そうです。近くにある小学校などは、濡れた人は少ないと思いますが、食料などは不足していると思います（夕方、南から車があまり入っていないので）。また水海道には、大きい病院としてきぬ医師会病院と水海道さくら病院があり、きぬ医師会病院は八間堀川の脇にあるので、恐らく1階には水が入ったのではないかと思います。森下町の住宅街にある水海道さくら病院も1階は水が入り、入院患者の方が上の階に避難しているようです。1日目の報告はこれまでとします。私にできることは、現地の情報収集と発信かと思しますので、支援に間に必要な情報などありましたら、eメールをください。では、ありがとうございました。

その3（9月11日（金）午前7時）

2日目の朝です。4時半に防災放送で救援活動のため、4時半から市内の鬼怒川東が停電になる、とのこと。水海道森下町は昨晚10時くらいから停電が続いています。昨夜もポーターが行き来していたので、救援は行われていた様子。今朝5時半、へ

りの音が聞こえます。今6時45分、防災無線で一市役所が停電し、電話がつかない」とのこと。家の周囲は、5時間前とそれほど水かさ変わらず。少し下がったようで、我が家の床上浸水はギリギリで防げました。これで仕事に打ち込めます。ただ、職場の車が動くかどうかはわかりません。プリウスでタイヤ半分が埋まっている状況です。このままエンジンをかけて良いものか、わかる方がいたら教えてほしいです（これがだめでも、10人乗りワゴン車が生きていれば使えます）。常総は高い場所が本当にないので、水海道地区の人は逃げる時間はありませんが、みな車をどうするかで躊躇したと思います。私も、守谷とかつくばに家族を連れ出すことも考えましたが、市外に出ると車両規制で戻れなくなると思い、とどまりました。その結果、正に孤島状態になりました。物置にあるボンベ式発電機か、屋上ソーラーの電力が使えれば外には出られませんが、たいいていのはできると信じて。ラジオで確認しましたが、石下の交流センター（ホール）に1000人くらい避難しているようですが、孤立しているようです。水海道小など同地区の4つの避難所に合計1000人いるかもしれません。テレビでも常総市の避難所のことが出てこないし、無線でも、避難所追加の放送はありましたが、今どこが空いているかわかる情報が得られませんでした。我が家の

指定場所と思っていた水海道。高に行ったら、こ  
こは避難所ではありません。一高への張り紙のみ  
鬼怒川に近いからなのか、ここが使えたら森下町  
や橋本町の人は来たと思いますが、住方がないで  
す。2階が大丈夫ならほとんど物資がなく狭い避  
難所に行くよりは、家にまだとどまっていた方が  
良いのかもしれませんが、判断が難しいです。

常総市のホームページに防災放送などで流れた。  
いつどこが避難所になったかは時系列で出ていま  
したが、今そこに何人いるのか、高齢者が行ける  
ところか、何もわからないです。市役所のWEB  
に出ている交通規制は外からくる方には役に立つ  
かもしれませんが。ただ、うちの近くの有料橋と豊  
水橋の間も冠水しているので、冠水場所は要注意  
です。車で深みにはまると大変なので、車で近づ  
く場合は目的地まで通れるか確認してからでない  
と行けないと思います。近くの保健センターの駐  
車場に、ヘリが来ているようです。まず、陸路以  
外で交流センター、水海道小学校、水海道一高、  
報国寺、社協のある福祉センターに食料、毛布、  
下着、タオルなどが届いてほしい（これは私の希  
望です）。市役所も含め川の東にある避難所はみな  
孤立し、停電たどこも厳しい状況だと思います。  
次に病院や福祉施設に留まっている方のところ、  
家に残っていて動けない人のところには、ポート  
か何かに載せて配れるとニーズも掴みやすいかと思

います（道路の水かさごとれくらいになったら動  
けば良いか考え中です。このあたりは水の流れは  
ありません）。推測ですが、石下地区はかなりの人  
が避難か救助されたと思います。  
水海道は大丈夫だろうと思っていた人が、夜の  
新八間堀川からの増水で自宅から動けなくなっ  
ている人がかなりいると思います。  
これからどうするか、です。

その4（9月11日（金）午後10時）

常総市水海道森下町で1日したこと、考えたこ  
とを記します。朝4時半の防災放送で起きる。窓  
枠の下とギリギリだった水位が少し減った。我が  
家はなんとか床上浸水を免れた。一日目、水が来  
ると思い、土嚢やシートを用意したことが良かつ  
た。トイレに防災用トイレのシートも設置（買っ  
ておいて良かった）。水槽の魚たちも無事、酸素も  
まだ持つ。道路の水が深く、車が動かないので、  
車を置き去りにし、急に泊めてほしいと来られた  
方と、一晩運命を共にした。彼のおかげで、玄関  
のブルーシート・バリケードもできたし、こちら  
も心強かった。その方が、職場である近くの病院  
に戻ることで、食料や少しの着替えと杖のよ  
うな棒を渡し、通りまで見送る。その後、ポート  
に乗って無事に着いたとの電話で安堵。私が昨日  
の午前に診察を受けたその病院の1階が天井まで、

今は水に浸かっている。震災の時の停電の恐怖か  
ら衝動買いしたガスボンベ発電機を物置から取り  
出す。水に濡れ、今日は動かせず。これが使え  
たら、夜でもどこでも、電気充電ができる（避難  
所とか、あちこちで携帯の充電に困っているたろ  
う。発電機を買っておけばこういうときに役に立  
てたのに）。隣の妻の実家は床上まで泥をかぶった  
が、朝には水が引いたので、早速父は床掃除。う  
ちの方はソーラーパネル発電が動くか試すが、エ  
ラー。電話で操作を確認したら動いた。動いたぞ。  
昼間は電気が使える。これほ心強い。とにかく今  
日は真上に複数のヘリがいる。このあたりに取り  
残された人を早く運ぼうとしてくれているのだろ  
う。それを無視するように家にいる罪悪感、なか  
なか水が引きそうにない中で、水が引かない可能  
性を考え、「もう避難しましょう」と親に話すことわ  
かってくれた。ヘリを呼ぼうとしていたらポート  
が来たので、妻の両親と妻と娘を託す。さて、意  
を決して、普段は徒歩3分の commons 常総事務所  
を見るため、水の中をゆっくり進む。しかし、ま  
だ道路の水が深く、胸まで水が浸かりそうだった。  
今日はここまで、と引き返す。ドアの半分が水に  
浸かっているということは、かなり水が入ってい  
そう。事務所に置いてある、外国人児童生徒の  
ための教材が心配だ。昨日の昼に、もっと上に上  
げておけば良かったと後悔。誰もいない海のような

町、青空に無数のヘリ。異様な光景だったが、この光景を残さないといけないと思い写真を撮る。一人になると、不思議な気持ちになる。自らの意思で留まっているのに、取り残されたような気持ち。そんなときは、カセットコンロでお湯を沸かして焼きそば。食糧はある。避難所にいる人も、家に残っている人も、すごく不自由をしている。家が傷んだり、なくしたりしている人も多い。自分の場合、町では高いところに家があったのと、震災グッズは一通り用意していたので、普通に近い生活はできる。それも災害時に家族を守りつつ、災害に関する仕事もできるように、と準備してきたからだ。この環境にいて仕事ができるのだから、すべきことをやらねばと思う。たくさんいただいたeメールを読んだり、電話を受けたり、かけたり。社会福祉協議会に県外からも複数の災害ボランティアのエキスパートが入り、災害ボランティアセンター設立準備が進んでいる。何をどれくらい、どのルートで届けてもらうか、部について調整するが、民間は決まるのが早い。水の量の変化、道路や橋の状況を見ながら、今後、人がボランティアセンターや活動現場に安全に入れるようにするのが今後の課題か。他にもいくつも支援に関する相談がある。何かしたいという想いと、現場を結びつけなければ、と考えても、どうも頭があまり働かない。でも少なくとも、次のことは少し見

えてきた。水が引き始め、避難所から自宅に戻りたそうとしている石下地区の一部で、近々ボランティアが必要になるので、その受け入れ態勢づくりが急務だ。電気もなく、食事も毛布も足りない街中の避難所が気になるが、今日も行けなかった。明日こそは、水海道は避難所に入らないでいた多くの人が自宅にいたはずで、昨晩急に水に囲まれ、動けなくなっていた。今日のボートなどの救援で市外や鬼怒川の西にある避難所に行った人は、その方が良かっただろう。うちの家族も、親戚のところに行けて安心した。家に留まっている人は、トイレの処理で困っているはずだ。そう思うと支援助資のリストに加えてもらった。これをなんとか届けたい。そうこうしているうちに、あつという間に夕方。外を見ると、片方の道はだいぶ水が引いているが、低いところはまだ深い。明日、車で動けたら良いが。ラジオによると、水が低いところは今後も流れるとのこと。そこがどこか、見極めたい。さすがに昨日あまり寝ていないので今日は早く寝よう。昨日と違い、本当に静かだ。

その5 (9月12日 土) 午前7時

常総市水海道森下町にいる、 commons の横田です。水海道有料橋入口から水海道二高の前を通る道の冠水が減ったようで、車が通りました。これで354号まで行ければ街中の移動がしやすくなり

ます。これからあちこち見に行きます。9月12日。本当は今日は中学校の運動会だった。でも町にいる人はごくわずか。実際に電気もなく、携帯もつながらず、車で動けず、食事も水やトイレも制約を受ける生活にいて、疲れが相当たまるのだと感じる。自分は家で布団で寝られるから良いが、体育館の人は相当きついと思う。昨日水海道の避難所にファーストフードの会社の炊き出しが入ったとか。みんなが暖かいものを食べられたことを祈る。水海道地区は10日の夜から翌日にかけて急増水して、何も持たずに避難所に来ている人が多くと思う。水が引くまで家にも数日は帰れない。避難所にいる間、炊き出しや足湯、マッサージとかがあつたら少しは楽になるのではと思うが、今日確認しにいこう。後はどのルートからまちに入ってもらうか、地図をつくらないと。市役所にも行かねば。片付けるところは山ほどある。まず道路にたくさんさんの瓦礫やゴミがある。道路の真ん中にある車も移動させないと、他の車が通れない。公共施設、特に病院や福祉施設、学校のニーズを調べようと思う。後は知人のブラジル関係のお店も手伝いたい。個人宅、畳、濡れてタヌキになったもの、冷蔵庫の中のものなど大量に捨てるものが出てくる。それを入れる袋、雑巾、バケツが大量に必要になる。マスク、タオルや雑巾など算るかどうかが、見極めよう。ゴミ袋は、行政の指定の袋以外でも良

いのか、聞かないといけない。断水なので、掃除するにも水を汲んでこないといけない。水汲み用のポリバケツと荷車もあると助かるだろう。みな家に戻り、大事なものが水に浸かった部屋で、とても辛いだろう。自分も事務所の中がどうなっているか、これから外国人児童生徒の学習支援のためのアフター・スクールを再開しようとしているか、時に、苦勞して集めた教材がどうなっているか、と思うと不安だ。ボランティアには大事なものを失った人の気持ちを察して活動してほしい。幸い私は、水海道で子ども会、PTAの役員をしてきたので、いろいろな人と連絡が取れる。教育委員会や学校、市役所にも知人がいる。そしてブラジルやフリンの仲間もいる。この災害から立ち直るプロセスで、私がずっと模索してきたこの地に多い外国からきた住民と地元の人との協力関係をつくりたい。それがコモンズらしい活動にもなると思う。知人から個別のニーズを聞くことで、社協などに集まるボランティアに活動先を紹介したり、上記のようなものをコモンズでも募り、集められれば、それをまわりの人に配りながら、さらにボランティアのニーズを聞き出すこともできるかもしれない。コモンズ事務所前の水が引けば、大家さんは2階、3階も貸してくれるというので、これらはできる。あと、できればこれから1、2週間、いろいろなところにニーズを聞きに行き、人

の送迎とか、炊き出しや足湯が必要な場合のコーディネート、資材や物資の運搬などを継続的にするチームをつくりたい。その中に、ブラジルやフリン・コミュニティの人も入れたいが、この人たちは仕事の代わりに頼むので、お金を払い仕事として活動してほしい。そのためにはコモンズでも資金を集める必要がある。携帯代、あるいは無線機、発電機、照明器具など物品費…30〜50万円、レンタカーか中古車を買うお金(軽トラも必要)…50〜80万円、運転手やチームに入る人に払う人件費…8千円×6人×20日=約100万円、コモンズとして、各種手続き、保険加入、記録、発信、経理も増えるので、最低100万円はいる、と考えると少なくとも300万円、できれば500万円くらいの資金を集めたい。お金だけでなく、上記資料の購入手続きやセッティングを手伝ってくれる人、私がした電話の内容を発信してくれる人、各ポイントの写真を撮ってきたり、それをWEBに掲載してくれるような人もほしい。もちろん、これについてやるかどうか、理事会の同意も得る必要がある。まず再度情報を集め、計画を練る必要があるこの地域を心配し、応援したいと言ってくれる人のためにも、これまで共に地域で暮らしてきた仲間のためにも、どこまでできるかわからないが、やってみよう。

その6 9月12日(土)

自宅(水海道森下町)まわりの水位が下がっている。市内の状況を調べ、写真に記録することを目標に、息子が以前通学に使っていた自転車に乗って森下町、橋本町、新井木町、瀬頭町、山田町、天満町、諏訪町そして市役所へ行く。八間堀川に近い橋本町、新井木町がかなり浸水している。私の自宅はやや高いところにあり、市役所の方向に南下しようとすると緩やかな下り坂になる。そして鬼怒川と小貝川をつないでいる「新八間堀川」(八間堀川とつながる川)に橋が3本かかっているが、2本の道は橋の北が池のようになっていて進めない。橋本町で出会ったPTA仲間によると、新八間堀川に流す水路の排水溝が閉まっている状態。水位が上がったため、地下水路を通して水が逆流し、急に出てしまったようだ。もともと低い土地で地下から水が溢れ、溜まる。それゆえ避難する間もなく車や家(ひどいところは1階天井まで)が水に浸かった。森下町で突然水が増えた原因はこれのようだ。その水を逃がすために、ポンプで水を川に流している。これで水が引くかどうか。豊水橋につながる旧354号を超えて市役所に向かう。議事棟が避難所になっている。森下町の知人に会い、先程撮った写真を見せる。別のお年寄りに、自分の家も撮ってきてと頼まれる。みな自宅の状況が一番知りたい。市役所を出て、郵便局の

ある交差点を新井木方面に進む。きぬ医師会病院は中も泥だらけ。その先の新井木交差点は水没。

きぬ医師会病院の裏手に進むと、相野谷町の東にある田が湖のよう。その南にある新井木もかなり広く浸水し、水面に家や浮かんでいる。今日もたぐさんのヘリが上空にいて、自衛隊のボートが行方不明者を探している。そんな中、若い2人の男性に会う。家に残してきた犬を救うため、サンダルで水に入ろうとしていたので止める。自衛隊の船着き場に行き、住民をボートに乗せて、救助に行ってもらえるよう頼んだ。それが許されたのに、今度は若者がいない。仕方なく、堀に沿って進み294バイパスに出る。新井木交差点は低地だが、294バイパスを測頭あたりまで上っていると、既に水はない。大型スーパーの駐車場に、他市派遣の給水車があり、水をもらう。しかし誰も来ていない。自転車に水の袋を乗せ、バイパス治いを進む。山田町でブラジルの方の経営する床屋さんがあり、荷物が出されてた。そこに水を置く。天満町、山田町も水が引いて間もないようで、帰って掃除をしている人は少なかった。帰ってきた人に給水車が来ていることを伝えると、みな知らなかった。家を見てきて欲しい人の家を探し、写真を撮り市役所の避難所に行く。頼んだ人がいない。

入口で、給水車の案内を市内に放送してほしいと

窓口で話すと、しばらくして流れる。午前中市役所の電源にトラブルがあったのか。市の宣伝車も水没し、住民に伝える手段がないという。これが今回の災害を象徴している。高いところにバックアップ施設や非常電源を持たない中で、想定していない堤防決壊と、中心部での水の急増による市役所の水没、これで電源や車を使えなくなった市役所から十分な情報が出ず、外部からも入れない状態。これが9月10日から12日まで続いた。

市役所で日本財団の方と合流。各地から来たボランティアが、市役所の片付けをされていた。対策室に行き、市長に情報が市民に伝わりにくいで、こちらでも大事な情報を流したいと話すと、ぜひやってほしいとのこと。自転車なら自由に動ける自分が足で情報を集め、口で会う人に伝える。原始的なことだが、しないよりは良い。早速、自分も知りたいゴミの収集がどうなるかなど確認。市民協働課などに立ち寄る。日本財団の方に車に乗せていただき、常総市災害ボランティア・センターを準備している場へ。全国から応援に来てくれるエキスパートの方、東日本大震災以来の方と再会。どのようにボランティアにセンターまで来てもらうかなどを話す。

NGOの方に依頼していた、水が出なくてもトイレを使えるようにするセットがたくさん届いた。ありがたい。これやマスク、ぞうきんなどを家に戻

って作業する人に配りながら、ゴミを集めをすることにしよう。

その後、再度市役所に忘れ物を取りに行き、今日撮った写真データを広聴課に渡し、守谷へ。

そこでコモシズ・スタッフの大野や日本NPOセンターの方と話し、スタッフを7人でシャワーを借り、また水海道森下町へ送ってもらった。これで3泊目だ。だんだん生ゴミの臭いがしてくる。ゴミを出したい。まちを歩くと、子供会やPTA仲間に出会う。車を何台もためにした人、新築の家がどうなったか避難所で心配する人、防げた浸水だと怒る人、話を聞くのが辛い、知っている人だから、互いに困っているから話せることがあると思う。泥が片付いたとしても、なんでこんな目に、という心の傷は残る。それを癒すには、仲間だと思える存在、関係が重要と思ひ、今後の活動のコンセプト、「誰かに助けを求めよう」だけでなく「ともに助け合う」への想いが強まった。「一緒に」を意味するポルトガル語「JUNTOS」を合言葉にしたい。

一気に趣旨書や必要機材リストを考える。電気も、水も、休める家もない（避難所は電気、トイレ、食事はあるが、狭いし気を使う。自宅は夜暗く寂しい、トイレが困る、その意味で、早く車で親戚の人のところに行った人は衣食住の面は良いが、自宅や市の情報が得にくい。）という生活状態と、

大事にしていたものを失った悲しみ、これを多くの常総市民が今共有している。災害面ではピンチだが、バラバラだった地域の間係を変えられるチャンスだと考えたい。

その7 9月13日(日)

朝、どれくらい水が引いたか見るが、水海道森下町の水はまだ残っていて、事務所に行く道はまだ深い。北水海道駅の反対側の相野谷に自宅があるという方と会い、このあたりの状況を話す。班長もしていて、状況がどうして見たいとのこと。

その方の車に乗せてもらい、きぬ医師会病院の前まで一緒に行くが、まだ午前8時前で自衛隊も来ていない。市役所に行く。市長さんにまちの状況を伝えつつ、自衛隊に聞くと、今日から水没した

ままの地域のローラー作戦を自衛隊、消防、警察で分担任して行うとのこと。その方のエリアは消防とのことで、消防担当の方に会い、事情を話す。

相野谷町も世帯数が多いし、どこがどうなっているかまでは聞かれてもなかなか答えられないとのことだった。その方が、自宅で仕事に使っていたパソコンも持ち出せなかったとのこと。市役所から自宅まで送ってもらった際、私がサブで持っていたノートパソコンVAIOをお貸しした。相野谷のことに詳しいこの方とは連携したい。家族の避難先である親戚の人が家に迎えに来てくれたの

で、親戚の家へ。風呂を借り、溜まった洗濯物を預ける。

義理の両親や子どもたちも元氣だ。安心する。子どもをどのようにつくばの高校へ通わせるか、私と妻と義理の父の車をどうするか、床上に泥を被った妻の実家の片付けをどうするかなど、30分くらい話し、また中妻へ送ってもらう。そして企画書をまとめる。県外から新たに來られた方とも会い、ボランティア・センターにいた方に、社会福祉協議会の災害ボランティア・センターとも連携しつつ、私が水海道地区でやるう思うことや、これから集めたい資料について説明。

昼に自宅に送ってもらう。神戸の村井さんが来て下っていて、これまでの状況を説明。住民同士がともに活動したり、お茶を飲みながら話すのは良いよと言われ、ほっとした。皆がこのような災害で、どれくらい保障があるのか考えていると思うし、森下町や橋本町は新築が増えていたから、二重ローンの問題もあると相談したら、詳しい弁護士の方を教えてくださいました。地元の方にも依頼して、相談会をすればとのアドバイス。これも企画しよう。ちょうど私たちが読みたい本をくださった。そのとき私の家族が、隣の妻の実家の畳を外に出しに來たので、村井さんたちも手伝ってくださいました。本当に助かった。妻の父の車は庭に乗り上げて停めていたので、エンジンがかか

った。畳と一部の家具がためだが、どうせならフローリングに変えれば、ベッドも置ける。我が家にもハウス・メイカーの方が来る。床下を見ると水を教えてもらう。水がどれくらい残っているか見てほしいとのこと。みな帰られた後、eメールを書こうとするが、主に使っているパソコンがOSTラブルで立ち上がらない。ノートパソコンのVAIOが4つもあったので、先に貸したのを除く3台があっても、どれもiPhoneの無線LANにつながらない。編集用に買ったあったmacで試したら、ネットが見れた。でも午後5時近くになり、外を見に行くと外出すると、朝あった道路の水がない。自転車は2台ともハシクしたので、ゴミ袋と飲みものをバックに入れて、まちを歩いて見に行く。会う人にゴミ袋を分け、ゴミの回収のことを伝える。まだ5カ所くらいしか人は来ていなかった。作業した方は引きあげたようだ。コモンズ事務所前も水はなく、入るといろいろなものひっくり返り、冷蔵庫が机の上、子どもたちのアフター・スクールやサマー・スクールの教室が泥だらけ。たくさんあった教材も、日本語テキストも。進路ガイドもみな水に浸かった。奥のデスクも、買ったばかりのプリンターも、パソコンもだめだ。これまで5年間外国人支援でやってきた資料をまとめた箱の棚も、半分以上のところが濡れている。でも良い。これならやりなおせ

る。自宅の方に比べれば、なんとでもなる。でもいつか、ここで子どもたちのスクールや僕が毎週行っていた日本語教室を再開したい。

会った方の家を探すが、なかなか見つからない。一通り歩くが、住宅地の真ん中では水が膝くらいまで残っている。奥の通りは通れる。その先の田んぼは海。この水が引かないと、浄水場が動かず、水が出ない。日が落ちた。新井木まで行き、借りていたコンテナ倉庫を開ける。こども水が入ったが、コモンズのファイルはまだ生きている。ここに置いて良かった。橋本町の水も引いている。市役所へ行き、避難所にいる近所の人のところへ。両親は家を見に行っているという娘さんに説明する。うちの子の同窓生だ。もう少しして家に帰けると話す。広報課の知人に、今日撮った写真のデータを渡す。14日から災害FMを立ち上げるそう。ラジオがあれば、それを皆に渡して、それで細かい情報をどんどん流せるかもしれない。今日も無線で流れたのは、床上の人に消毒薬を配ること、学校が水曜から始まること、大型の処分したいものの持ち込み先はここ（既にいっぱい）。ゴミを持って行く場が課題だ。というくらい。もっと細かい情報を流すメディアがないと、被災地の中では何もわからない。これも皆の悩みだ。FMが聴けるラジオ、車も電池もたくさん欲しい。私の持っていた手回し充電もできる小型ラジオを、諏訪に作っていたというブラジルの方に渡しつつ、

「JUNTOSプロジェクト」のことを話す。持って来たドリンク剤を渡し、頑張ろうと話す。市民協働課にも寄り、今回の災害でブラジル人と日本人の関係が悪くなる事態は避けよう、そのためにもJUNTOSの方法でやりたいと話す。理解してくれた。ありがた。昨日に比べ、東日本大震災時に私たちが集めて、いわきに送ったような支援助資がたいふ増えた。自分も被災者ということで、ハンやジュースをもらい、バッグに入れる。この地区指定の燃やせるゴミの袋も大量に必要だが、市役所には在庫がない。多分周辺の店にもないだろう。困った。昨日から唯一空いているツルハドラッグで業務用ゴミ袋を買う。先月まで毎週日本語を教えていたブラジル人の親子に会う。知人宅に避難しているそう。もう午後8時だが、避難所を見ておきたいので、3月まで自分の子が通った水海道小学校へ、体育館の人はそれほど多くはなかった。ブラジルの知人家族が2組。家は大丈夫だったそう。職員室に行くと、先生が二人泊まり込みとのこと。聞いたら、多いときは700名もいたそう。外部から物資が来ないから、学校で炊き出しをしようと米を炊いたそう。おにぎり1個の理由がわかった。先生方も自分のところもやられているのに、本当に頭が下がる。コモンズのプロジェクトを話し、隣の福祉会館へ顔を出し、社会福祉協議会の人と話す。しばらく

電話が通じず、大変だったようだ。14日からの協会の災害ボランティア・センターがうまくスタートしてほしい。一番怖いのは、やっと水が引いて自宅に戻ろうとしている水海道地区に、ボランティアの車が入り込んだり、道を聞いたり、そんなことにならないでほしい。守谷からなら294号で北上せず、玉台橋を渡り、鬼怒川の西を北上して美妻橋を渡って中妻に行つてほしい。水海道の街中には絶対に入つて欲しくない。これからボランティアの体制をつくるので、まず市街地を避けて中妻に行つてほしい。これから車のレッカーなどするのに、車が入つてくると道路が動かなくなる。個人宅の悲惨な状況を、見物しに来てほしくない。結構重い荷物が入ったバッグを持ちながら、また徒歩で真つ暗な道を帰る。やっと橋本町の橋が渡れた。水没していた家々の前に、たかさんのものが出されている。家に着く。やるべきことは見えた。火曜日にコモンズ常総事務所の掃除をして、掃除道具や機材を入れる状況を整え、2階にスタッフ・ルームをつくる。発電機と無線が使えれば、ここを拠点に高圧洗浄機や荷車、軽トラなどあちこちに行つて行く。月曜日は火曜日に行うコモンズ常総事務所の片付けの準備をしよう。後はチームづくりだ。学校のニーズも急いで聞いてみよう。相野谷地区も見に行かなければと、線路を超えて入る。とりあえずここまで。やるべきことは見えた気がする。

## れている方の手記からの抜粋

6ヶ月たった今だから、ボランティアの支援も冷静に見て大変な事をやってくれたのだとみられるけれど、9月の時点では着るものもない、車もない、何もないのでから、自分達で動く等とても考えられませんでした。しかし、お風呂も入れて、下着ももらって、食事ができた時はものすごくうれしかったです。あたたかいみそ汁も飲めて生き返ったと思いました。

市役所に避難して11日の朝は市役所で缶のパンと水一本でした。2コ入っていたパンが1コしか食べられませんでした。夕方3時まで何もありませんでした。これでは生きていけないと思いました。避難指示は354号の南側だけ出ていたのは聞きましたが、八間の北側には出てませんでした。水がきたからにげたのです。10日の1時半頃です。三坂の水ではありません。夜になってから、三坂からの水が入ってきたのです。

安全安心課様には、いつも広報送っていただきありがとうございます。つくばに避難し遠く離れていると街の様子もわからず、取り残されたよう

な感じになります。広報が届くことでほっとします。年末には社会福祉課よりおもちが届き、とてもうれしかったです。

つくばでボランティア(たすけあいセンター)「UNTOS」の人達が交流会を開いてくれます。常総から来ている人がたくさんいるのに、どこにだれがいるのかわかりません。何棟にだれがいるという事がわかれば話もできるのに、空き部屋がたくさんあるのだから、同じ棟にまとめて入れてくれればよいのと思いました。高齢福祉課では、つくばの方に70世帯もいることがわかっていました。市役所内で情報を共有して欲しいです。

### 避難所でのこと

・避難所は住居であるから、みんなで作り上げていくのがよいと思います。職員だけでなく、みんなやれる事だっただけです。職員だけでなく避難している人も、声をかけてくれれば物資の整理等が手伝いできたと思います。「その物は整理しないから開けないで下さい。」としかれた事がありました。



# 橋本町からつくば市に避難さ

・避難所も地域別にやってもらいたい。統合の際は、同じ地域同士でやってもらいたい。

・足湯のつばやきでの皆さんの言葉。私にも共感できることがたくさんありました。

早く自宅に帰りたい、夜眠れない、出口がどこにあるかわからない、支援に格差がある、役所に行っている時間がない、つらい思いをしている、など

今後の減災のために

・失敗もふくめて、学んできた事、経験した事を実践する事に生かしていきたい。

・東海村や水戸市などで、広域避難計画、地域住民同士の避難を計画している。万が一にもおきた時に備えて常総市も地域別に避難所等、計画して下さい。

生活再建と孤独防止

・何もない所から新しい生活を始めなくてはならない。

・孤独死の前に孤独な生があると云います。サロ

ンや見守りが必要です。

・被災者が中心になって、外から支援してくれる人といっしょに行動をおこしていく。

・最後の一人まで、一人一人に寄り添っていったら最後の一人になるだろう。すぐくうれしい言葉です。

・助かった命だけれど、この命をどうやって維持していくかが問題です。

・いかに人間としてつながっていくか。

・遠くの人を助けたいと思っても手がとどかない。近くの人からみんなが手を差しのべていけば、遠くの人まで届きます。いつかは自分にもかえってくるはずです。

## おわりに

この冊子のタイトルにある「ぬくもり」とは人の想い、「バトン」は伝えるということで、モノを届けるだけでなく、想いが互いに伝わる活動をしようと企画しました。避難所からまだ改修されていない自宅に戻った人も、避難所に残っていた人も、「なんでこんなことに」という辛い想いを家族以外の人に話せる機会が少なかったと思います。そして同じ常総市内の人も大変な被災経験、避難生活をしてきた人の状況を新聞記事でしか見聞きできませんでした。その結果、住民の間に心の温度差が広がっているように思いました。この本を通じて、それぞれの状況や当時の想いが共有され、一緒に元の生活を取り戻し、より安心できる地域をつくっていかうという想いを広げたい、それが心の復興になると思いました。

水害で何が起こり、生活がどう変わってしまうか、数字だけではわからないことを記録し、私たちが得た教訓を今後、また他の地域の人たちに伝えて、今後の防災や減災に役立てる、これも常総市民ができることだと思いました。その活動に多くの方が参加してくれました。想いを寄せていただいた皆さん、ありがとうございました。あの時を伝える写真を提供くださった前原土武さん、石川理司さん、中村恵美さん、地図データを提供いただいた防災科学技術研究所、そして常総市役所の皆さんのご協力にもお礼申し上げます。

そしてこの本の製作にあたっては、170名の方が資金支援をしてくださいました。このような皆の協力によってこの本はできています。この本に詰まっている多くの人の想いを、本を通じて多くの方に伝えていきたいと思えます。

常総市の復旧復興ための活動に参加していただいた皆さん、支援を寄せていただいた皆さん、1年間本当にありがとうございました。

たすけあいセンター「JUNTOS」スタッフ一同





ぬくもりのバトンプロジェクト  
常総市民9月10日からの想い

2016年9月 発行

発行者 認定特定非営利活動法人茨城NPOセンター・コモンズ  
問い合わせ先 〒303-0005 茨城県常総市水海道森下町4335  
たすけあいセンター「JUNTOS」

tel 0297-44-4281 fax 0297-44-4291  
mail juntos@npocommons.org

url www.juntos-joso.org

DTP 篠崎智子  
印刷・製本 山三印刷株式会社

